

INTEGRATED REPORT 2024

お茶の水女子大学
統合報告書



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

ステークホルダーの 皆様へ

お茶の水女子大学は、本学の活動と運営を支えてくださるステークホルダーの皆様に、本学の活動内容をより深くお伝えするために、これまで公表してきた決算情報である「財務情報」に、本学の目標や経営、教育・研究・产学・社会連携等の活動状況の「非財務情報」を加えた「統合報告書」を発行いたしました。

本学が目指す方向性と、社会に提供する価値の創造プロセスについて、ステークホルダーの皆様にできるだけ分かりやすくお伝えすることを心掛けました。

この報告書により、本学の目指す未来を皆様と共有し、対話することで、大学運営の継続的な改善につなげるとともに、新たな価値を共創し、未知の問題解決にも取り組んでいきたいと考えています。

〈報告対象期間〉

2023年1月1日～2023年12月31日

※一部に上記期間外の情報を含みます。

写真の建物は「国際交流留学生プラザ」です。

© Keishin Horikoshi/SS



CONTENTS

大学の概要

- 04 HISTORY
- 06 DATA
- 08 学長メッセージ
- 10 お茶の水女子大学の価値創造プロセス
- 12 お茶の水女子大学のビジョン

特集

- 14 ジェンダー×未来
- 16 ジェンダー×社会連携
- 18 ジェンダー×教育
- 19 ジェンダー×研究
- 20 ジェンダー×国際社会
- 21 ジェンダー×大学運営
- 22 データで見るお茶の水女子大学での女性の活躍
- 23 女性研究者へのインタビュー
- 26 活躍する卒業生へのインタビュー

活動実績

- 30 教育
- 32 研究
- 33 社会連携
- 34 理系女性育成
- 35 附属学校園

ESGの取組

- 36 環境への取組
- 37 社会との共創
- 38 ガバナンス体制

財務状況

- 40 2022年度決算
- 42 大学の財務状況(収入)
- 44 大学の財務状況(支出)

- 46 創立150周年記念募金に関するお願い

HISTORY

時代を切り拓いた150年、150年のその「先」へ

お茶の水女子大学は、女性のための日本初の官立の高等教育機関として、1875年に東京女子師範学校が創立されたことに始まります。学ぶ意欲を持って、社会のために役立ちたいと望む女性たちのために、150年にわたって女子教育の先達として道を切り拓いてきました。

女性リーダーの取組



お茶の水女子大学のあゆみ

お茶の水女子大学の前身「東京女子師範学校」の設立を布達	東京女子師範学校は、東京師範学校と合併し、東京師範学校女子部となる	高等師範学校から女子部を分離し、女子高等師範学校を設立	関東大震災により、校舎焼失	お茶の水女子大学(文学部・理家政学部)を設置
1874	1885	1890	1923	1949
1875 「御茶ノ水」の地に開校 (現東京都文京区湯島1丁目)	1886 東京師範学校は高等師範学校となり、高等師範学校女子部となる	1908 奈良女子高等師範学校の設置に伴い、東京女子高等師範学校と改称	1936 現在地の新校舎で開校記念式を実施(東京都文京区大塚2丁目)	1950 文学部を文教育学部に、理家政学部を理学部及び家政学部に改組

時代を切り拓いた女性リーダー



東京女子大学第2代学長
安井 てつ(1870 - 1945)

本学卒業後イギリスへ留学し教育学を学びました。良妻賢母教育ではなく、一人ひとりの人格を尊び自立した女性を育てる教育に東京女子大学学長として情熱を燃やしました。

日本初の女性理学博士
保井 コノ(1880 - 1971)

日本で初めて博士号を取得した女性研究者です。生涯を通じて植物学に関する数多くの論文を著し、当時保守的であった学問の世界で女性の道を切り拓きました。

日本初の女子帝大生、女性化学者
黒田 チカ(1884 - 1968)

日本初の女性理学士となり、さらに保井に続き国内第2号の女性博士となりました。シコニンやカーサミンといった天然色素の研究などを行い、化学の分野に業績を残した研究者です。

日本初の農学博士
辻村 みちよ(1888 - 1969)

日本で最初の女性農学博士です。ビタミンCやカテキン、タンニンといった、お茶に含まれる成分の研究などに情熱を注いだほか、後進の教育にも注力しました。

未来につなぐ

2004 国立大学法人化



国立大学法人法により、
国立大学法人お茶の水女子大学に移行

お茶の水女子大学は2025年11月29日に創立150周年を迎えます。そのことを歴史に刻むために、大学ホームページに特設サイトを開設して、学生・教職員のみならず、すべてのステークホルダーの皆さんとともに歓びを分かち合うことができるよう準備を進めています。

詳細は
特設サイトを
ご覧ください。



大学院家政学研究科
(修士課程)を設置 大学院人文科学研究
科(修士課程)を設置

大学院人文科学・理学・家
政学研究科(修士課程)
を、大学院人間文化研究
科(博士前期課程)に改組

大学院人間文化
研究科を大学院
人間文化創成科
学研究科に改組

1963

1966

1997

2007

2025

1964

1992

2004

2024

大学院理学研究科
(修士課程)を設置

家政学部を生活科学
部に改組

国立大学法人法により、
国立大学法人お茶の水
女子大学に移行

共創工学部を新設
関連する大学院の
設置を検討中



男女共学論を唱える教育専門家
小泉 郁子(1892 - 1964)



国際的に活躍した女性物理学者
湯浅 年子(1909 - 1980)

本学卒業後アメリカに留学し、『男女共学論』を著すなどの社会的活動を通じて女性の権利向上を広く訴えるとともに、日中教育文化交流に尽力し、戦後は桜美林学園の創設発展に貢献しました。

国際的に活躍した女性物理学者です。第二次大戦中も研究への情熱を忘れず、日仏両国において博士号を取得し、また両国の文化交流の架け橋となりました。

創立150周年記念事業 シンボルマークのご紹介

本学の学生が作成したもので、大学の歴史を代表する正門に、明治時代の女学生が描かれています。女学生はこれからも全ての人が幸せに暮らせる社会の実現を目指し、未来を指差しています。これは同時に、本学がいつの時代も女子大として最高峰にあり、優秀な女性を育てているという自負と誇りを示した1本指でもあります。女学生と150の文字をつなげ、150年を迎えたあとも、その姿勢は引き継がれていくという願いが込められています。



お茶の水女子大学は
2025年に創立150周年を迎えます

actis

DATA

数字から見えるお茶の水女子大学の“今”

お茶の水女子大学はさまざまな挑戦を続けており、その事業の一部を基本情報から就職、国際などの分野に分けてご紹介いたします。本学は多様な学問領域をカバーし、学生たちに豊かな教育環境を提供し、学生の成長と未来の準備をサポートしています。

教育研究組織

学部数

4 学部

研究科数

1 研究科

附属学校園

学生寮

6 校園

※文京区立こども園を含む

3 寮

小石川寮
お茶大SCC
お茶の水女子大学音羽館

附属図書館
*2023年5月1日時点



図書の蔵書数

679,330 冊

雑誌の種類

9,219 種

基本データ

*2023年5月1日時点

大学



学生数
合計

2,039名

文教学部
928名

理学部
558名

生活科学部
553名

共創工学部
(2024年4月開設)

大学院

人間文化創成科学研究科

763名

博士前期課程

479名

博士後期課程

284名

*2023年5月1日時点

卒業生修了生

学部卒業生数 *2022年度

延べ29,829名

大学院修了生数 *2022年度

延べ10,494名

教職員数
教職員数

教職員数 *2023年5月1日時点

481名
うち女性の
教職員の
割合:57.4%

土地建物

土地面積 136,113.64m²

建物面積(延床面積) 103,103m²

外部資金

10億2,114万4,012円

(うち寄附金2億5,057万1,726円)

科研費 2億7,328万4,280円

*2022年度



就職

*2022年度

学部 就職率

98.0%

※就職率とは、就職希望者数のうち就職した人数の割合です。

進路状況

学部卒業生数

488名

一般企業等
225名

官公庁
35名

教員
8名

進学
178名

その他
42名

大学院修了生数

251名

一般企業等
142名

官公庁
17名

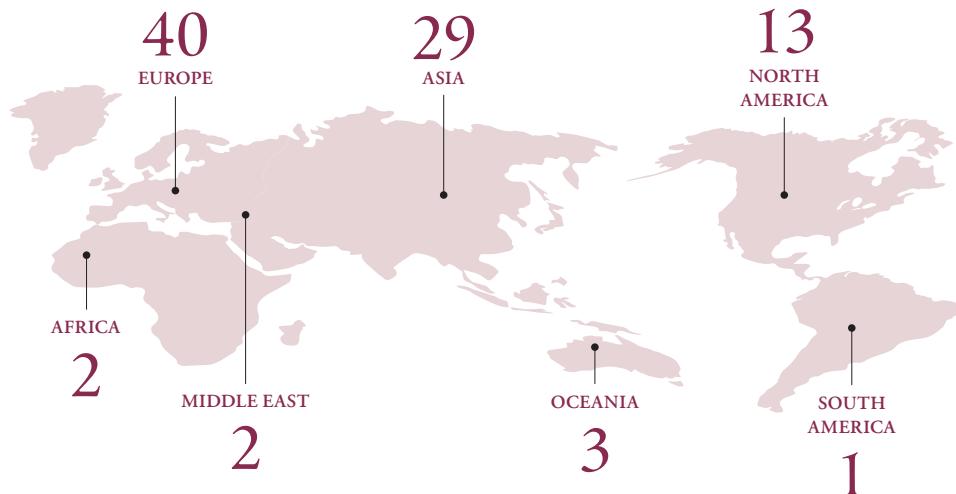
教員
13名

進学
35名

その他
48名

※博士前期課程の進学かつ就職の学生4名はどちらにも計上しています。

国際



国際交流協定 *2023年5月1日時点

32か国・地域

90大学

外国人留学生数

*2023年5月1日時点

212名

その他

本学独自の奨学金の
授与人数 *2022年度実績

223名

国内協定大学 *2023年5月1日時点

22大学

奈良女子大学/東京工業大学/東京大学
東京藝術大学/東京外国语大学/日本女子大学
早稲田大学/慶應義塾大学/中央大学など

THE日本大学ランキング2023

1位

*女子大学中 *総合ランキングは32位

MESSAGE

国立大学法人お茶の水女子大学長

佐々木泰子



学長メッセージ ————— 女子教育の伝統を基盤に 社会変革を通した一人ひとりのwell-beingの実現

伝統と社会変革の担い手としての女子大学

お茶の水女子大学は、1875年に日本初の女性のための官立高等教育機関「東京女子師範学校」として創設されました。女性が社会で活躍することさえ困難な時代から現在に至るまで、日本初の女子帝大生や女性理学博士をはじめとして国内外で活躍をした多くの卒業生を輩出し、日本の女子教育をリードしてきました。

2004年の国立大学法人化に際しては、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げました。このミッションのもと、日本国内に限らず、また民族、人種、年齢を問わず、学びたくても学ぶことのできない開発途上国の女性たちをも含め、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援することを目指し、アフガニスタンの女子教育支援をはじめとして、アジア・アフリカの女性や幼児のための教育支援と研究交流を継続して行っています。

世界は今、気候変動、資源枯渇、人口動態の激変など、地球規模で連帶して解決に取り組まなければならない様々な課題に直面しています。日本においては、特に人口減少は喫緊の課題であり、現在の出生率が続けば、人口は減少を続け、2050年過ぎには1億人を割り、その後さらに減少を続けていくという予測もされています。

日本が活力を持ち持続可能であるためには、今まで以上に、女性の社会的活躍が必要とされ、豊かな専門知識を持ち、グローバルな場で

リーダーシップを発揮する女性が求められています。しかし、日本の女性の活躍は諸外国と比較して十分とは言えないのが現状です。日本のジェンダーギャップ指数2023を見ると、146か国中125位で、ジェンダーギャップ指数が初めて公開された2006年(115か国中80位)以来、最低となりOECD諸国の中で最下位という残念な状況です。そのような状況下で、女子教育の先達としての優れた歴史を持つお茶の水女子大学の果たすべき役割は大きいと考えています。

これまで刻んできた伝統を引き継ぐとともに、新たな時代の要請にも応じた学びと研究の環境を整備して、リーダーシップを発揮し、新たな社会的価値を創造する女性たちの育成に努め、人々の持続可能で多様な幸せ(well-being)の実現に取り組んで参ります。

未来を拓く教育プログラム

総合知の育成

地球規模での課題を解決するためには、世界の人々と協働し、より良い未来の創造に向けた変革を起こす人材が必要となります。お茶の水女子大学では、教養知と専門知に実践知を結びつけるコンピテンシーを育成し、それらを実装する総合知によって社会を革新する人材の育成を進めています。また、IT人材の不足という社会の要請に応え、「全学的データサイエンス教育」を行っており、文系・理系を問わずに全



ての学生を対象として、データサイエンスの知識の習得を進めています。学生自身が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得することで、社会で活躍する人材を育成しています。

理工系人材の育成

テクノロジーは私たちの社会や文化に欠かせないものとなり、未来の創造への大きな役割が期待されます。また環境問題をはじめ、テクノロジーが取り組むこれからの中の社会の課題には、自然科学だけではなく人文学や社会科学からの視点が重要です。そのような時代の要請を受けて、お茶の水女子大学では工学と人文学・社会科学を協働させて新しい文化や価値を創り出すことによって社会課題の解決を目指す新しい学部「共創工学部」を2024年度に開設しました。多様な人との対話・実践を通じて新しい情報利用の可能性を探索する共創工学の発展により、学問領域・技術分野等の垣根を越えた協働を活性化し、社会に新たな意味や価値を創造する理工系人材の育成が期待されます。

社会とともに。—新たな価値の創造—

産官学の連携による社会課題の解決

お茶の水女子大学は、長く日本のジェンダー研究や女子教育の中核を担ってきました。

こうした背景をもとに、2022年にジェンダード・イノベーション研究所(以下、IGI)を設立しました。「ジェンダード・イノベーション」とは、生物学的及び文化・社会的な性差を考慮した知識の再検討にもとづくイノベーションにより、多様な幸せを実現できる社会の構築を目指すという、近年注目されている概念です。IGIでは、これまで日本ではあまり取り上げられることのなかった性差・ジェンダー差・(人種、エスニシティ、階級などの)交差性に注目した研究による新たなイノベーションの創出に取り組んでいます。産官学を巻き込んだ連携研究を積極的に展開していくことにより、経済発展とともに、男性中心社会から持続可能で誰もが幸せに暮らせるジェンダー平等社会の実現を目指します。

一人ひとりのwell-beingと持続可能な未来を目指して

お茶の水女子大学は、令和7年(2025年)に創立150周年を迎えます。

この伝統を基盤として、これからも社会の要請に適った改革を果斷に行い、ジェンダー平等を相補的に高める女性人材の発掘、そしてグローバルな視点をもって、一人ひとりのwell-beingと持続可能な未来を創るためにリーダーシップを發揮できる女性の育成に貢献することをバーバスに定め、女子教育の新時代を切り拓くべく邁進して参ります。

今後とも、お茶の水女子大学へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

お茶の水女子大学の価値創造プロセス

INPUT > VISION&ACTION >

社会の課題/社会からの要請

- 少子高齢化
- ジェンダー平等
- 気候変動
- 多様性の尊重
- 地球環境保全
- デジタル化の推進

人的資本

教職員数 481名
学生数 2,802名
生徒・児童数 1,570名
(2023年5月1日時点)

知的資本

4学部/1大学院/
6附属学校園
※文京区立こども園含む
(2024年4月1日時点)
附属図書館蔵書 68万冊
(2023年5月1日時点)

社会・ 関係資本

国際交流協定数
90機関
連携協定機関
自治体 19機関
民間企業 10機関
大学・研究機関 61機関
(2023年5月1日時点)

財務資本

総資産 969億円
経常収益 81億円
(2022年度実績)
建物延面積 103,103m²
(2023年5月1日時点)

ビジョン・活動モデル

MISSION

ミッション

お茶の水女子大学は、
学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、
真摯な夢の実現の場として存在する

すべての女性がその年齢・国籍等にかかわりなく、
個々人の尊厳と権利が保障され、
自身の学びを深化させ、
自己の資質能力の開発に
主体的にチャレンジすることを支援

女性が活躍できる社会の実現

大学・附属連携

持続可能な社会実現のための
研究推進

経営

世界の女子高等教育充実・
発展のための貢献

社会連携

国際
総合知を持ち社会を革新する
人材の養成

価値の循環による資本の充実 持続的な価値の創出

2004年に掲げたミッション「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」を基盤に、本学が有するあらゆる資産を活用して、多様な価値を生み出し、持続可能な社会の実現や地域社会の発展などにつなげていきます。

2025 > OUTPUT

創造する価値
OUTCOME >

お茶の水女子大学 創立150周年



世界の人々と協働し、
生涯にわたりより良い
未来の創造に向けた変革を
起こすグローバル
女性リーダーを育成

日本における
ジェンダード・イノベーション
研究拠点を構築

文理を超えた
学問分野を融合した
先端的研究による
持続可能な社会の
実現への貢献

Society5.0の
実現に向けた
「総合知」の創出

大学・附属連携による
新たな教育モデルの
提供

女性上位職の増加等、
女性活躍
ロールモデルの輩出

人的資本経営の充実や
JOB型雇用への転換等の
社会的な流れに対応した
リカレント教育・
リスクリギング強化のための
社会人の学び直しの
場の提供

女性の活躍を促進し、
すべての人の
well-beingの
向上に貢献

DEI
(多様性・公平性・包摂性)の
実現

DEI…Diversity Equity&Inclusion

総合知を養うコンピテンシー教育やリカレント教育・リスクリギングの
場の提供により社会で活躍する人材を育成。

グローバルな視点を取り入れた人材が本学の指導者として戻り、研
究・学生指導を行うことで人材育成の好循環を生み出す。

お茶の水女子大学のビジョン



世界の女子高等教育充実・発展のための貢献

本学は、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」ことをミッションとし、すべての女性がその年齢・国籍等にかかわりなく、個々人の尊厳と権利が保障され、自身の学びを深化させ、自己の資質能力の開発に主体的にチャレンジすることを支援してきました。

第4期中期目標・中期計画においても本学のミッションを堅持するとともに、明治8年(1875年)から長年にわたり国内外で活躍する女性人材を輩出してきた伝統と実績に基づき、世界の人々と協働し、生涯にわたりより良い未来の創造に向けた変革を起こすグローバル女性リーダーの育成に努めます。

持続可能な社会実現のための研究推進

新型感染症拡大、気候変動、資源枯渇、人口動態激変等喫緊の課題の解決策を導き出すため、研究・イノベーション拠点を構築し、文理を越え学問分野を融合した先端的研究を推進することにより、SDGsの理念である「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」に努めます。

また、「こころ」「からだ」「食」の面からの研究を企業・研究機関等と連携して行い、革新的な健康イノベーションを創出します。

さらに、大学と附属学校が連携し、年齢段階に応じた特色ある教育モデルに関する研究・実践を行い、その成果を社会に発信します。

現代は地球規模で変化の激しい時代であり、国立大学は社会からの期待に応えるとともに、その存在意義を示さなくてはなりません。現在、我が国の人団の約51%は女性であり、地球規模の課題解決、そのためのイノベーション推進には女性の参画は不可欠です。しかし、ジェンダーギャップ指数2023で、我が国は146か国中125位とOECD諸国の中で最下位という結果からも分かる通り、国際的に遅れをとっているのが現状です。このような中にあって、国立の女子大学として男女共同参画社会の実現、女性の社会進出、女性人材育成のために先導的役割を果たすことは本学の使命と言えます。

お茶の水女子大学は、現在4つのビジョンを掲げ、すべての人々が手を携えて幸せに暮らせる社会を実現するために、また世界レベルの教育・研究と先進的な大学マネジメントによって社会的な課題に向き合い、その解決に尽力し、未来に向かって進んでいきます。

総合知を持ち社会を革新する人材の養成

学士課程と大学院博士課程との連携や企業との連携による教育(寄附講座等)により、教養知と専門知に実践知を結びつけるコンピテンシーを育成し、それらを実装する総合知によって社会を革新する人材を養成するとともに、附属学校園との協働を通じて大学入学前からの総合知育成モデルの探求に努めます。

また、Society5.0(知識基盤社会)の実現に向けて、IT人材が不足する社会の要請に応え、持続的社会の発展に不可欠な工学知を持った女性リーダーを育成します。

さらに、海外大学との大学間交流協定を拡大するとともに、留学経験や海外大学とのオンライン教育プログラムを通して、多様な価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成します。

女性が活躍できる社会の実現

長年にわたるジェンダー及びグローバルリーダーシップに関する研究・教育・実践の蓄積を背景として、日本におけるジェンダー・イノベーション研究の拠点を構築し、その実績を基に、産学官が協働して、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン実現のための社会貢献に努めます。

本学は女性が活躍できる社会の実現のためのロールモデルとして、役職者の高い女性比率を維持するとともに、社会人女性のためのリカレント教育を推進します。

また、途上国女子教育の充実をはじめ、多くの国の女性たちの多様な活躍を支援し、平和な社会の構築と文化の発展に貢献します。

特集

ジェンダー×未来

Gender × Future

国内初のジェンダード・イノベーション拠点形成を目指した研究所を設立

お茶の水女子大学は、2004年度の国立大学法人化に際して「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」という本学独自のミッションを掲げ、これまで多様なグローバル女性リーダーを育成・輩出してきました。

2015年度には、大学の強み・特色であるリーダーシップ、ジェンダー、国際協力、比較日本学等の研究分野等について、海外機関とも連携した世界水準の国際拠点を構築することを目指して、グローバルリーダーシップ研究所、ジェンダー研究所で構成される「グローバル女性リーダー育成研究機構」を設立しています。両研究所では、海外連携機関との国際共同研究により、「お茶大インデックス」の開発、「新しいグローバル女性リーダーシップ論」の構築等の教

育研究の成果を、国際シンポジウムや海外で開催される学会等での発表を通じて世界に発信してきました。

2022年4月には、①これまでの多分野の研究成果や政策に対して、性差・ジェンダー差視点に基づいた調査・研究を実施し、②研究成果を基に、企業等と連携して未来の製品「モノ」やサービス「コト」を検討・開発・提案し、社会実装する仕組みを構築する、真のイノベーションを創出するための研究拠点(ハブ)形成を目指し、同機構に新たに「ジェンダード・イノベーション研究所(IGI)」を設立しました。同研究所では、今後、より一層、産学連携を推進し、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン実現のための社会貢献に寄与することを目指して活動していきます。

TOPIC 》 ジェンダード・イノベーションの事例



医薬品の男女での効き方の違いに関する研究



顔認識機能の男女での精度に関する研究

ジェンダード・
イノベーションに関する
その他の事例については
こちらから
ご覧いただけます。



お茶の水女子大学のジェンダー研究は、1975年、学内に「女性文化資料館」を設立したことに始まります。その後、1986年に独立した組織として「女性文化研究センター」に改組されました。1996年には国際的なジェンダー研究を目指す「ジェンダー研究センター」に、本学が創立140周年を迎えた2015年には「ジェンダー研究所」となり、長く日本のジェンダー研究・教育の中核を担ってきました。また、同年にはグローバルリーダーシップ研究所も設立しました。そして、これまでの日本をリードするジェンダー研究・教育の歴史を背景に、2022年4月に新たな組織として「ジェンダード・イノベーション研究所」を設立しました。

お茶の水女子大学は、長年にわたるジェンダー及びグローバルリーダーシップに関する研究・教育・実践の蓄積を基礎として、产学連携の推進によりダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン実現のための社会貢献に寄与することを目指しています。

これまで刻んできた伝統を引き継ぐとともに、新たな時代の要請にも応じた学びと研究の環境を整備して、リーダーシップを発揮し、新たな社会的価値を創造する女性たちの育成に努め、人々の持続可能で多様な幸せ(well-being)の実現に取り組んで参ります。

これまでの「お茶大だから」から 「お茶大とともに」への転換を目指して

これからの国立大学法人は、これまで以上に、教育研究成果を社会へ積極的に発信し、社会からの人的・財政的投资を呼び込み、教育研究を高度化する好循環システムを構築することが求められます。

お茶の水女子大学は、長い歴史を有する国立の女子大学である

「お茶大だから」こそ実現できた取組やその成果について、今後は「お茶大とともに」のフレーズの下、産業界や他機関との連携を通じて、積極的に社会へ還元していくことを目指しています。

「お茶大だから」から「お茶大とともに」への転換イメージ



新たな社会価値を創造する女性たちの育成・すべての人のwell-beingの実現

✿1 ジェンダー × ○○

ジェンダー × 社会連携

Gender × Social Cooperation

ジェンダード・イノベーション産学交流会の取組

ジェンダード・イノベーション研究所では、産学でジェンダード・イノベーションの理解を深めるための企画として「産学交流会」を開催しています。2022～2023年度は計9回の交流会を開催し、銀行、保険、化学、精密、創薬、食品などの幅広い業種から、延べ158社・291名が参加しました。企業との連携を創出するためのワークショップをジェンダード・イノベーション創始者のロンダ・シービングター教授（スタンフォード大学）を招いて開催、また、学生のピッチなども通して、アカデミックな研究と、実際の現場感覚を持つ企業が交流することで、ジェンダード・イノベーションに関する知見が高まり、さらなる産学のシナジーが期待される交流会となっています。



ロンダ・シービングター教授を招いたワークショップの様子(2023.11)



2022～2023年度のジェンダード・イノベーション産学交流会の様子

ジェンダード・イノベーション 産学交流会の プログラム事例

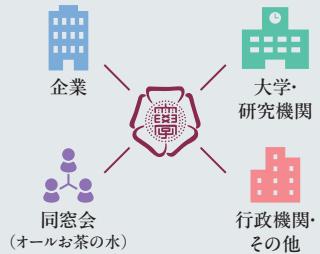
- ・各社の課題とIGIへの期待
- ・味覚のジェンダー差に関する研究
- ・ジェンダード・イノベーションが我が国の産業界に与えるもの、そしてさらなる産学連携の深化に向けて
- ・従業員の多様性に関する企業の戦略
- ・イノベーションを促進するためのD&I

TOPIC ▶ ジェンダード・イノベーション研究所の推進体制のイメージ

3つの部門



イノベーション創出のハブ組織



研究所パンフレットは
こちらから
ご確認ください。





大学と企業等が連携した「社会連携講座」の取組

お茶の水女子大学は、共同研究の一環として、研究機関や民間企業等から運営経費や研究員を受け入れ、特定の目的及び課題について一定期間(3年以上5年以下。更新可能)継続的に協働して教育研究を行う「社会連携講座」制度を整備しています。

富士通・お茶の水女子大学AI倫理社会連携講座 連携機関 | 富士通株式会社

ジェンダー課題に対してAIを活用した解決策の立案を目指す連携拠点として、参加企業との連携により、上記講座を設置しています。



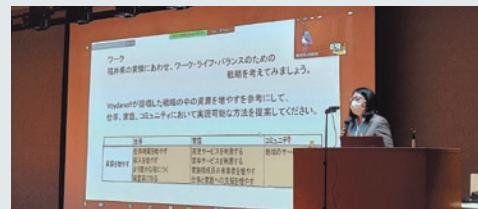
社会連携講座「未来起点ゼミ」 連携機関 | 株式会社ブリヂストン

未来起点のバックキャスティング思考を取り入れ、社会に向けた提言報告をする講座となっています。



TOPIC 》 企業で働く女性の管理職やリーダーの育成「ハッピーキャリア“縁”カレッジ」

お茶の水女子大学は、福井県と相互協力協定を締結しています。本協定は、女性リーダー育成及び女性の幸福の実感に関する調査の協力をすることを目的としており、2014~2021年度は「未来きらりプログラム」、2022年度からは「ハッピーキャリア“縁”カレッジ」という企業で働く女性の管理職やリーダーを育成する研修プログラムを連携して実施しています。



*2 ジェンダー×○○

ジェンダー×教育

Gender × Education

「女性イノベーター」(起業家)育成に向けた取組

お茶の水女子大学では、研究からイノベーションへの橋渡しにおいて重要な「女性イノベーター」の育成を目指し、ジェンダード・イノベーションに関するアイデアを製品やサービスに変えるための方法を学ぶ授業を開講しています。

2023年度は全学共通科目としてアントレプレナーシップ演習(ジェンダード・イノベーション実践編(モノ編・コト編))などを開講したほか、東京大学との共同科目としてアントレプレナーシップ演習(ジェンダード・イノベーション入門編)を開講し、アントレプレナーシップの考え方、また、そのアイデアをイノベーションに結び付けるための各種手法、社会実装に向けた起業のための基礎的な知識、起業を取り巻く産業界との関わりや連携を具体的に学ぶ機会を提供しています。

ジェンダード・イノベーション



ジェンダー×「教育」×「研究」

ノルウェー科学技術大学とのINTPARTプロジェクト

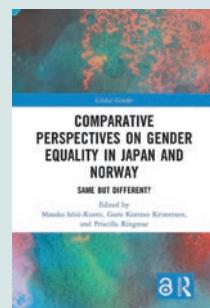
Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity

お茶の水女子大学では、ノルウェー科学技術大学ジェンダー研究センターと国際共同研究・教育プロジェクトを実施しています。(ノルウェーリサーチカウンシル助成:2019~2023年度)

教員・研究者・大学院生の相互派遣、ノルウェーと日本のジェンダー平等・ダイバーシティについての比較研究、セミナーやワークショップの開催などを進め、研究成果の一環として、2022年に *Comparative Perspectives on Gender Equality in Japan and Norway* を刊行しました。

2023年度は、ジェンダー分野の若手研究者による研究を推進する

目的で、大学院生の相互派遣プログラムを実施しました。日本のジェンダー研究の中核を担ってきた歴史を未来の世代につなぎ、他機関との連携を含めて社会に還元するため、今後も大学院レベルのジェンダー研究教育を継続していきます。



*3 ジェンダー × ○○

ジェンダー × 研究

Gender × Research

ジェンダード・イノベーションに関する研究推進の取組

研究のテーマ

性差分析のための情報可視化

伊藤貴之教授 基幹研究院自然科学系



研究内容・研究成果の概要

情報可視化は日常の生活や業務のデータを画面上でビジュアルに表現する技術であり、データサイエンスの中核となる技術の一つです。本研究では、情報可視化技術を用いた性差分析に幅広く取り組んでいます。例として、AIによる映画推薦がもたらすジェンダーバイアスの発見や、空調の温感に関する男女差の分析などを報告しています。

空調の温感に関する男女差の可視化事例



ワークライフマネジメントに向けた 研究者支援の取組

お茶の水女子大学では、(1)子育て中の学内女性研究者に対する研究補助者支援、(2)妊娠中・未就学児養育中・介護・看護中の学内研究者(性別不問)に対する一時支援、(3)育児休業を取らない育児期間中の教員の職務軽減制度、(4)女性研究者のための研究継続奨励型「特別研究員制度」(呼称「みがかずば研究員制度」)など、多様な研究者支援を実施しています。2022年度には、これらの取組を社会に向けて広く発信し、社会全体での多様なライフスタイルに応じた働き方の推進に資するため、パンフレット「ワークライフマネジメントに向けた研究者支援」を発行しました。



パンフレットの詳細は
こちらから
ご確認ください。



*4 ジェンダー × ○○

ジェンダー × 国際社会

Gender × International Cooperation

グローバルリーダー育成のための「女子大学発」 実学型EDIプログラム（文部科学省「大学の世界展開力強化事業」）

大学の世界展開力強化事業(インド太平洋地域等との大学間交流形成支援)(支援期間:2022~2026年度)に、お茶の水女子大学の『グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム』が採択され、本プログラムを通じた国際交流を推進しています。

本プログラムは、英国、オーストラリア、米国、カナダの指定する協定校への半年間の留学、英語によるインターンシップを含むプログラムに参加することで、EDI-公平性、多様性、包摂性-を兼ね備えたグローバルリーダーを育成するものとなっています。



ジェンダーの視点から
[公平性(Equity)]・[多様性(Diversity)]・[包摂性(Inclusion)]
を目指すグローバルリーダーを育成



アジア・アフリカ等の開発途上国への女子教育支援

お茶の水女子大学では、2002年度より、アフガニスタンをはじめとするアジア・アフリカの途上国に対する女子教育支援を継続して実施しています。2023年度についても、アフガニスタンで学校図書室事業を展開している公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(SVA)と連携した絵本寄贈事業や、国際協力機構(JICA)と連携したアジア・アフリカ・中東地域の教育者・行政官等を対象とする「乳幼児ケアと就学前教育」事業などを通じて、平和な社会の構築と文化の発展に貢献しています。



*5 ジェンダー × ○○

ジェンダー × 大学運営

Gender × Management

次世代の女性役職者の育成と、 高い女性教員比率の維持

メンター制度の充実やロールモデルの提示、配偶者同行休業制度等の女性が働きやすい職場環境を構築することで、2023年度の役職者*に占める女性の割合は44.7%となっています。加えて、2021年10月には「法人経営人材の育成方針」を作成し、女性役職者の戦略的育成の方針等を社会に広く公表しています。また、2023年度の女性教員比率は44.1%となっており、全国立大学法人の中でもトップクラスの数値となっています。こうした環境は、本学の女子学生にとって、学問を学ぶ上のみでなく、ライフスタイルやキャリアパスの身近なロールモデルを得る上でも適したものになっています。

*「役職者」=学長、理事、副理事、監事、管理職(副学長、評議員、附属学校部長、附属学校校長、副校长等、課長級、研究科長、学部長、系長、附属図書館長)



政府目標「指導的地位に占める女性の割合:30%」を大幅に達成
(第5次男女共同参画基本計画(2020.12.15))

THEインパクトランキング2023 「SDG5:ジェンダー平等を実現しよう」において、 国内の大学で最上位を獲得

お茶の水女子大学は、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education」が実施する「THEインパクトランキング」に2023年度より初めてエントリーしました。同ランキングは、国連がSDGsで掲げる17の各目標について、研究、管理責任、アウトリーチ(現場における実践)、教育という広範な4分野にわたる大学の取組をランク付けし、サステナビリティにおける大学の貢献度を示すものです。お茶の水女子大学は「SDG5」において、これまでの活動内容・成果が認められ、国内の大学で最上位となる「201-300位」にランクインしました。



お茶の水女子大学は、2027年度までに
「100位以内」となることを目指しています。

2023ランキングのエントリー数について

115の国・地域から1,705大学が参加、日本からは91大学が参加

*6 データで見る お茶の水女子大学での女性の活躍

◆ 女性教員比率
(本学、2023年5月1日時点)

44.1%

国立大学協会
アクションプラン
(2021～2025)の目標値
女性教員24%以上



◆ 教授職に占める
女性教員比率
(本学、2023年5月1日時点)

35.0%



◆ 学長、理事、
副学長に占める
女性比率
(本学、2023年5月1日時点)

44.4%



*1 比較対象は、文部科学省「成果を中心とする実績状況に基づく配分」における同グループ(強み・特色のある専門分野で、世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする大学のグループ)のうち、大学院大学を除く9大学。

TOPIC 》 国立大学法人トップの科研費の女性採択比率

お茶の水女子大学の2023年度科学研究費助成事業(科研費)の新規採択比率は40.8%(国立大学法人第6位)、採択件数に占める女性研究者の割合は61.8%(国立大学法人第1位・10年連続)となっています。これらは、全国的に見て高い値であり、高度な研究活動と女性研究者の活躍に対し、社会から高い期待が寄せられています。

国立大学法人
第一位

*7 女性研究者への
インタビュー

Interview with
Female Researchers

視点から、未来を紡ぐ
生活経済学と情報科学の

斎藤 悅子 教授

ジェンダード・イノベーション研究所

五十嵐 悠紀 准教授

基幹研究院 自然科学系

お二人の現在の 研究内容について教えてください。

斎藤 私はもともとジェンダー研究を専門としていて、生活経済学の視点から生活における性差を研究してきました。ジェンダー研究は、性差を平等にすることを目的としています。しかし、私自身、性差を発見しながらも、どのように平等にしていくかという点に課題を感じていました。例えば、介護保険制度下での車椅子利用者における性差についての研究です。介護保険利用者は男性より女性の方が多いのですが、介護保険下での車椅子利用状況について調査したところ、利用者割合は女性より男性の方が多くなっています。原因を探っていくうち、車椅子の規格が男性基準で女性には使いにくかったり、女性には車椅子を押してくれる介助者が付きにくかったりという課題が見えてきました。では、その課題をどうやって解決するのか。そこに踏み込んでいくのがジェンダード・イノベーションです。ジェンダード・イノベーションは、性差を一旦、受け入れて、新たな商品やサービスを開発し、人々の生活を豊かにすることを目的としています。2022年4月に設立されたジェンダード・イノベーション研究所に私も所属しているのですが、ここでは、実際に企業との共同研究がスタートしており、今後の成果が非常に楽しみです。

五十嵐 私は、手芸をコンピュータグラフィックスで支援する研究を行っています。例えば、オリジナルのぬいぐるみを作ろうとすると、頭の中に立体を思い浮かべることはできても、実際に縫うための型紙をデザインするとな

コンピュータグラフィックで設計した
手芸作品(五十嵐准教授)

ると専門知識が必要になるので、とても難しいです。そこで、この課題を解決するために、コンピュータで型紙を自動生成する技術を開発しました。「形をデザインするモデリング」と「縫製後の形状をシミュレーションする」という2つの技術を同時に実行することで、効率的に型紙を作ることができます。結果として、誰でも簡単にオリジナルのぬいぐるみを作れるようになりました。実際に日本科学未来館にスペースをお借りして、子どもを対象にワークショップを開いたりもしました。

女性研究者として活動する中で、
「ガラスの天井」を意識したことはありますか。



調理行動データベースに関する研究のイメージ(斎藤教授)

斎藤 お茶の水女子大学に来てからは、「ガラスの天井」を感じることはありませんが、それまでは度々感じることはありました。とはいって、大抵の職場が男性中心だったので、女性に不利なこともあると自覚してやってきた感じです。しかし、本当にそれでいいのか。女性は、なぜ女性であるという理由で、社会の中で不利なのだろうと思ったとき、その答えが「ジェンダー」だったんです。それならば、ジェンダーを研究してみようかなというところで、今も研究の道にいるのだと思います。

五十嵐 私も斎藤先生と同じで、お茶の水女子大学では「ガラスの天井」を感じたことはありません。私はお茶の水女子大学の卒業生で、在学中も特に性差を感じたことはなかったです。実は、大学院に進学して初めて「情報科学ってこんなに女子が少ないんだ」って気づいたんです。中学・高校も女子校だったので、理系選択って言っても全員女子でした。お茶の水女子大学の理学部情報科学科に入ってからも、数学やりたい、情報プログラミング大好き!って言っているのもみんな女子でしたし、教えてくださる先生も女性でした。なので、女子に囲まれた中ではジェンダーについて考える機会もなく、気づかなかっただけなのかもしれません。思い返せば、とあるグループで係を決める必要があり、私以外が男性だった際に、私だけあらかじめイベント係に決まっていて、そのほかの機械系・技術系の係を男性で決めていたことに、少し驚いたことがあります。私自身、懇親会とかイベントが好きなタイプなので、結果的に問題はないんですけど、話し合いで決めたかったですね。ちなみにお茶の水女子大学の研究室ではサーバー係でした。

斎藤 話し合いで決めてほしいと言わなかったんですか?

五十嵐 今だったら「違うんじゃない?」と言えるかもしれないけど、当時は言えませんでした。と言うよりも、腑に落ちない部分はあったものの、その場では「それはおかしい」と気づけてなくて、普通に受け入れる感じでした。今は、ジェンダー問題を意識するようになって、日常生活の中の多くの「おかしい」に気づけるようになりました。妊娠すると世の中ベビーカーだらけに見えて、ここはスロープがない、ここはエレベーターがないというのに気づくのと一緒に気付くよ。

持ち方次第で、自分が合わせていくしかないと思っていたことが、これはおかしいから変えていかないといけないと思えるようになるのだと思います。

**女性が働くという点で、
お茶の水女子大学の環境をどのように感じますか。**

五十嵐 すごく恵まれていると思います。例えば、17時以降に会議が組まれる大学って、結構多いと思うのですが、お茶の水女子大学はそういうことは基本的にありません。女性が多い職場なので、子育てをしながら働く人への理解が自然と生まれ、会議時間を設定する際にも、プライベートとの両立を考慮するようになるためだと思います。職場全体がワークライフバランスへの意識が高く、すごく働きやすいです。

斎藤 五十嵐先生のおっしゃった話、すごくよく分かります。先ほども話しましたが、お茶の水女子大学に着任する以前は、男性文化の中で

教員をやってきましたので、教授会が終わった後の飲み会に行かないとい入ってこない情報なんかもありました。だから、家のことを気にしつつも参加しなければならなかつたり…。お茶の水女子大学ではそういうものがないので、女性が多い

と、これだけ違ってくるんだと実感しています。

五十嵐 「行け」とか「行くな」とは違うんですよね。行きたければ行けばいいし、行けないときは行かなくてもいい。その選択肢が与えられているだけすごく過ごしやすいと思います。しかし、最近はずいぶん選択肢も増えたと思います。大学での話ではありませんが、子どもが小さい頃、私は子連れで学会に参加していて、当時は珍しかったのですが、今は男性の研究者も子連れで学会に参加したりしていて、すごくいい傾向だと思います。

斎藤 そうですね。世の中もずいぶん変わってきていますよね。街中でもベビーカーを押す男性がずいぶん増えました。ベビーカー自体の設計などの工夫もあるのだろうなと思っています。

五十嵐 社会は、多様性やジェンダー平等の実現に向けて環境を整備している真っ最中で、暮らしやすくなっていますし、これからも暮ら

しやすくなっていくのだと思います。私は、ユーザーインターフェースの研究者なので、インターフェースやデザインの面で多様性やジェンダー平等に対する課題の解決に少しでも携われたら嬉しいです。

**お茶の水女子大学の教員として、
今後どのように活動していきたいと考えていますか。**

五十嵐 研究者としての活動については、一つは先ほど話した通りですが、一女性教員としては、研究者としての側面だけでなく家庭での姿や子育ての経験など、人間としてのありのままの姿を学生に見せていくたいと思っています。お茶の水女子大学は、情報科学科においても女性教員が多く、学生にとって多様な女性の生き方を見られる貴重な環境です。しかし、多くの大学



の現状は女性教員が少なく、特に情報科学分野ではその傾向が顕著です。女子学生は、ロールモデルとなる女性教員が少ないために、情報科学分野への進学や就職を諦めてしまうケースも少なくないと思うんです。私自身、情報科学の研究者の道に進むことができたのは、お茶の水女子大学の学生時代に、子育てしながら博士論文を書いている先輩や、さまざまな女性教員に出会ったことが大きいです。だから、私は教員として、学生にとってのロールモデルのようになれればと思います。そして、情報科学分野における女性の活躍を推進していきたいと考えています。

斎藤 私は、定年まで10年をきました。残りの教員生活において、お茶の水女子大学の教員として、ジェンダー平等社会の実現と女性研究者の育成に貢献したいと考えています。私が社会に出たときに比べればジェンダー格差は少なくなっていますが、それでもまだまだ、今の学生たちが社会に出ればそういう壁にぶつかることがあると思います。そういったときに、大学で学んだことを活かし困難を乗り越えられる人材を育てたいです。また、ジェンダード・イノベーション研究所においては、ジェンダー問題の解決に貢献できる研究を企業や地域などと連携して今後も続けていきます。これらの研究についても、学生とともに進めることで、未来に活躍する女性研究者の育成にも貢献したいと考えています。

*8 活躍する卒業生への
インタビュー

Interview with
Successful Graduates

授乳服は意識を変えるツール
自由に外出できる社会を目指して



光畠 由佳さん

家政学部被服学科 卒業

有限会社モーハウス

代表

NPO法人子連れ
スタイル推進協会

代表理事

自身の経験をきっかけに行動を起こし、女性が自由に外出できる「着られる授乳室」を製作

私が授乳服を開発・販売する会社「モーハウス」を立ち上げたのは、自分の授乳経験がきっかけです。2人目の子どもが乳児の時、電車で子どもが泣き止まないという経験をしました。母乳を与えれば泣き止むと分かっていても、電車内で胸を出すことは困難です。ほかの方法で泣き止まそうとするも効果はなく、結局、胸を出して授乳せざるを得ませんでした。この経験から「子育て中の女性がこのような不自由な思いをしないと外出できないのはおかしい」と感じ、問題意識を持つようになりました。「授乳服を作つて広め、子育て中の女性が我慢をせずに外出できる社会を目指そう」「行政や企業に呼びかけるのではなく、自分自身が行動を起こそう」と考えたのです。「着られる授乳室」をコンセプトに、授乳服の製作をスタートさせました。

多くの人の手を借りて「着られる授乳室」は完成しました。これで、お母さんたちは授乳の心配なく外出できるはずと、お母さんたちの集まりなどで積極的に紹介しました。ところが、「自分なんかにお金は使えない」というお母さんたち自身の自己肯定感の低さや、子育てへの責任感が壁となって、なかなか興味を持ってもらえませんでした。むしろ、理解を示してくれたのは、当事者以外の人たちでした。いくつかのメディアも取り上げてくれました。メディアの評価や、助産師会からの認証、イベントの実施などで徐々に女性たちの共感を得ることができ、現在、「モーハウス」は多くの人に認知されるブランドへと成長しました。

空間デザインへの興味と家政学部で培った被服の知識が授乳服づくりに大きな影響を与えた



結婚して茨城県に移るまでは、東京のパルコで美術企画の仕事をしていました。当時、パルコという会社はさまざま

な分野で新しい文化を生み出す先駆的な存在でした。そこで新しい美術の表現に触れるうちに、空間デザインとして建築に興味を持つようになったのです。「着られる授乳室を作りたい」という思いは、子どもと一緒に女性が外出できる新しい文化を創りたいという気持ちと、授乳服は建築だという捉え方がベースです。パルコでの美術企画の仕事からは、とても影響を受け

たと感じています。また、男性中心の社会だった当時に、子育て中の女性が積極的に外に出ていくことをイメージできたのは、学生時代をお茶の水女子大学で過ごしたことにも影響しています。お茶の水女子大学は、リーダーシップを發揮でき

る働く女性を育ててきた歴史ある大学です。今考えれば、あの環境に身を置けたことは自分にとって大きな経験だったと思います。

大学では、家政学部被服学科に在学していました。大学で学んだ被服機能の知識は、授乳服づくりに活かされています。そして、現在もお茶の水女子大学の大学院生です。大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻に在籍し、「子連れ出勤」のメリット・デメリットについて研究しています。

すべての女性に自信と自己肯定感が生まれ 自ら行動を起こすことができるよう

私は、授乳中の母親の困難を解決するために授乳服を開発しました。しかし、開発を進める中で、授乳服は単なる課題解決ではなく、母親の価値観を変えるパラダイムシフトをもたらしうるものだと気づきました。

従来、母乳育児は大変で、外出の妨げになると考えられていました。しかし、私自身授乳服を着ることによって、子供と一緒に外出しやすくなり、母乳育児が自分の人生を豊かにしてくれるものだと感じられるようになったのです。授乳服を着ることで、自信と自己肯定感が生まれ、子育てをマイナスではなくプラスのものだと思えるようになりました。

だからこそ、自分のことにお金を使えないと考えている子育て中の女性たちの意識や価値観を変えるために、私は授乳服を作り、さまざまな手段で情報発信を続けてきました。

「魚を与えるのではなく釣り方を教えよ」という老子の格言があります。与えられることを待つだけでなく、自分が手に入れるための行動を起こすことが大事です。授乳服は女性が自信を持って外出するための「釣り竿」のような存在だと考えています。自ら考え、行動を起こすことができる人材は、いつの時代の社会においても求められています。長い歴史を持つお茶の水女子大学には、今後もそのような女性リーダーを育てていただきたいと願っています。



*8 活躍する卒業生への
インタビュー

Interview with
Successful Graduates

一人でも多くの女性研究者が
生き生きと働く未来の創造へ

丸山 千秋さん

理学部生物学科 卒業

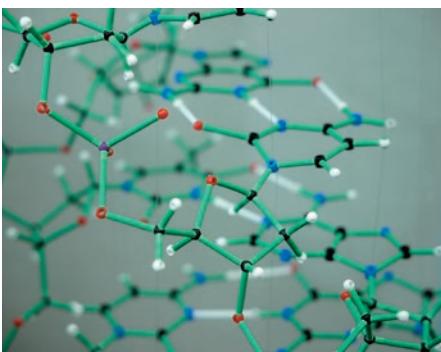
公益財団法人
東京都医学総合研究所

脳神経回路形成プロジェクト
プロジェクトリーダー



遺伝子への興味から理学部生物学科に進学 さまざまな研究に携わり、脳の発達過程の研究へ

現在、脳の発達過程の研究をしています。脳の発達というのは、胎児期に非常に重要な過程があることが分かっています。妊娠中期までに脳を構成する大部分のニューロンという神経細胞が誕生し、脳の最終的な位置に配置されます。この時期までに脳に何か問題が起こると、胎児の脳の発達にさまざまな影響が出ることがあり、自閉症スペクトラム(ASD)や統合失調症などの原因不明の精神疾患の発症リスクを高める可能性があることも分かっています。私の所属するプロジェクトでは、マウスの脳を用いてニューロンの発現や形態を分析し、ヒトとマウスの脳の発達過程における遺伝子発現の違いなどを比較することで、ASDや統合失調症の発症メカニズムの解明を目指しています。



の水女子大学理学部生物学科に進学しました。在学時は、4年次の卒業研究でショウジョウバエの遺伝学を研究していました。その後、他大学の大学院に進み、動物学、昆虫学と研究テーマを変えながら、博士号を取得しました。博士号取得後は、研究の道に進むことを決意し、いくつか博士研究員(ポスドク)を経験しました。そして、16年ほど前に、現在の職場の前身である東京都神経科学総合研究所に職を得て、脳の研究に携わるようになりました。

女性が生き生きと働くアメリカでポスドクを経験 日本で女性研究者として働くことの難しさ

「研究の道に進む」といっても、当時、学位を取って大学院を修了しても女性が研究職に就くことは容易ではありませんでした。大学院修了時、助教のポストが1つあったのですが、私は選んでもらえませんでした。おそらく、当時はまだ、女性の研究者は珍しく、「女性が研究をずっと続ける」という認識が一般的ではなかったからかもしれません。結局、ヒトゲノム解析をするポスドクの職に就きました。

働いて1年が経った頃、国際学会に行くチャンスが訪れました。そこでドクターコースで取り組んだ研究を発表したところ、アメリカ人の女性研究者に「うちで働くのか」と誘われました。少し悩みましたが、思い切って研究の場をアメリカに移すことを決意しました。今から30年ぐらい前のことです。

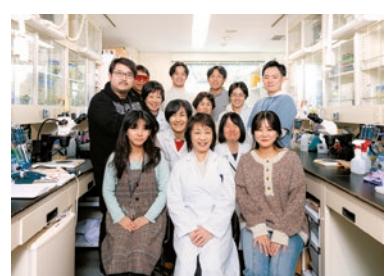
アメリカに行って、まず驚いたのは、研究室の中に女性がとても多かったことです。そして、みんな、子育てをしながらも生き生きと働いていて、日本との違いを感じたのと同時にすごく励されました。当時、すでに結婚して夫を日本に残してきていたので、2年半で日本に帰りましたが、もし独身で行っていたら、そのままアメリカに住み着いていたかもしれません(笑)。

アメリカから日本に戻ってきた時、アメリカの研究環境がとても居心地よかったからこそ、日本の研究環境は女性には厳しいと感じました。日本では長時間労働が当たり前で、当時子育てをしていた私は、保育園に迎えに行くシッターさんと夕食を作つて子どもに食べさせるシッターさんを別にお願いして仕事を続けているような状況でした。そこまでして研究を続けたのは、研究者としての夢があって、子どもを理由にそれを諦めたくはなかったからです。お茶の水女子大学時代にお世話になった能村堆子先生の存在も大きかったかもしれません。当時、子育てをしながら研究を続けて教授になられた先生は、今思えば、私のロールモデルでした。

未来の女性研究者を育てるために さまざまな選択肢のあるフレキシブルな社会へ

日本では、いまだに「女性は家にいて子育て」という考え方が根強く残っています。しかし、近年は女性研究者の働きやすい環境が整備されつつあり、国際的な学会では男女関係なく優秀な論文が評価されます。お茶の水女子大学の学生さんたちには、ぜひ研究の道に進んでほしいです。大学院に進学し、自分のやりたい研究に挑戦してほしいと考えています。そのためには、大学も金銭面や就職面での支援を充実させ、学生が安心して研究に集中できる環境を整える必要があります。特に就職面を心配する学生は多いですが、博士号取得後は、研究者以外にもさまざまな選択肢があります。もっとフレキシブルに考えて、結婚や出産を経験した後でも、自分がやりたいことを改めて考え直してもいいと思うし、社会全体がもっとフレキシブルな考え方ができるようになれば、女性研究者のみならず女性全体にとってより働きやすい環境になるのではないかでしょうか。

もし私が、学生時代の自分に声をかけることができたとしたら、私は「人生いろいろあったけど大丈夫、楽しく研究しているよ」と、言うと思います。結局、自分のやりたいこと、好きなことを続けることが一番いいんじゃないかなということです。

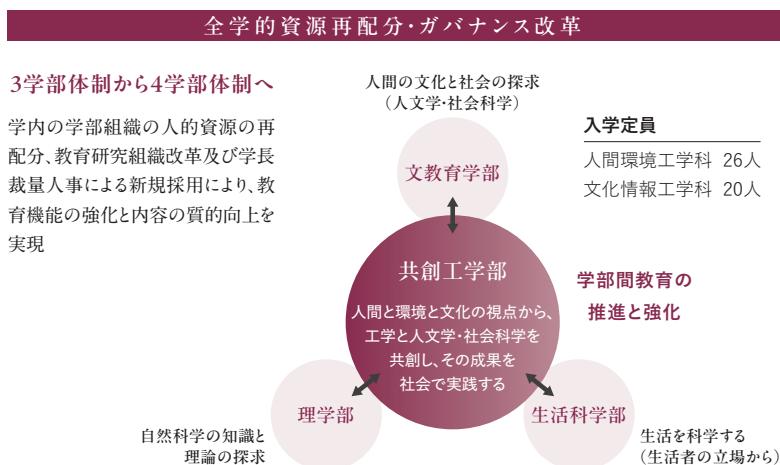


活動実績－1

教育

2024年度より「共創工学部」を新設

2024年度より3学部体制から「共創工学部」を新設し4学部体制へと替わりました。共創工学部の新設は、Society5.0の実現に向けて工学系人材が不足する社会の要請に応えるため、学内の学部組織の人的資源を再配分し、工学知を持った女性の活躍促進に寄与するため、大学一丸となって整備を行いました。共創工学部では、「人間環境工学科」、及び「文化情報工学科」の2学科を設置し、工学と人文学・社会科学の知を協働し、ともに未来の環境、社会、文化を創る工学系女性リーダーの育成を目指しています。



文理の知恵を併せて、既存の未来像を塗り替えるイノベーションを目指す

工学はものづくりと言われますが、必ずしも目に見え、手で触れられるものだけが対象ではありません。人々が価値を感じられる「コト」を創り出すことも重要な対象です。データサイエンスやデザイン思考を活用して、未来の環境、社会、文化を創る。様々な垣根を越え、多様な人々を巻き込みながら新たな意味や価値を創造していく。そして生み出される未来は、これまで考えられていた未来像とは違う、まったく新しい物語です。共創工学部は、文系と理系の学びをともに活かす共創能力を養い、大局観を持ちながら文理の知恵を併せて新しい技術や文化を創り出すことを目指す、これまでにないコンセプトの工学部です。

学科概要 DEPARTMENT OVERVIEW

共創工学部の2つの学科では、社会課題を解決するための社会イノベーションや、社会を変える文化の創造に資する文化イノベーションを目指しています。技術の素をつくるシーズ型の工学ではなく、素材やデータから何が生み出せるかを考えるニーズ型の工学。ここには人の数だけテーマがあります。

人間環境工学科 HUMAN-CENTERED ENGINEERING

人の暮らしから、 マテリアル・環境までをデザインする

工学・自然科学はこれまで、高度な社会基盤の形成に貢献してきました。人間環境工学科では、デザイン思考、設計技術、データサイエンスなどの学びを通して、さらにそこで暮らす様々な人々や社会にフォーカス。自らの興味関心に基づいて課題を発見し、「多様性の包摂」から新しいイノベーションを推進する能力を磨きます。

文化情報工学科 HUMANITIES DATA ENGINEERING

人文学をデータサイエンスと工学技術で読み解き、 新しい文化を創造する

文化情報工学は、古今東西の文化の伝統保存・再創造、知的財産、ローカルな価値など、固有のもの、代替不能のものを扱う新しい学びの分野です。人文情報学（デジタル・ヒューマニティーズ）と、情報工学の様々な手法や技術（応用数理、データベース、AIなど）を活用しながら、「個の尊重」「多様性の包摂」を踏まえた「豊かな文化」へと結びつく価値を創造する能力を磨きます。

参考 URL

- 大学HP「共創工学部が2024年4月より新設されます」
<https://www.ocha.ac.jp/news/20220228.html>
- 共創工学部デジタルパンフレット
https://www.ocha.ac.jp/limited/kyousou_d/fil/ocha_Pamphlet.pdf
- 大学案内2024年度版「共創工学部の誕生」
https://www.ocha.ac.jp/news/20220228_d/fil/daigaku2024_01.pdf
- 大学案内2024年度版「学部・学科・プログラム一覧」
https://www.ocha.ac.jp/news/20220228_d/fil/daigaku2024_02.pdf
- 共創工学部特設サイト
<https://www.te.ocha.ac.jp/special/>
- 学報-OCHADAI GAZETTE-2023年7月号
<https://www.ocha.ac.jp/plaza/press/gazette.html>

学士・修士一貫教育トラック制度の充実

大学院進学を志願する学生に対し、学部3年次から大学院授業科目の履修や研究指導を行うことで、学部と大学院の教育を架橋し、専門的な学修を促進させる「学士・修士一貫トラック」制度を充実させています。この制度は、学部4年生の8月の大学院入試の一部が免除され、また4年生から大学院の講義を取得することで留学・インターンシップに参加する時間的余裕を生み出すことができます。もちろん研究者へ

の近道にもなり、例えば研究を早く始めた分、修士の早期修了、博士の早期修了により一般的な学生より2年早く博士号が取得できる可能性が高まります。

この制度を利用した学生は、コースにより異なりますが、学部在学時に大学院の授業科目を最大10単位まで履修することができます。2023年度は同制度を活用した博士前期課程学生13名が修了しました。

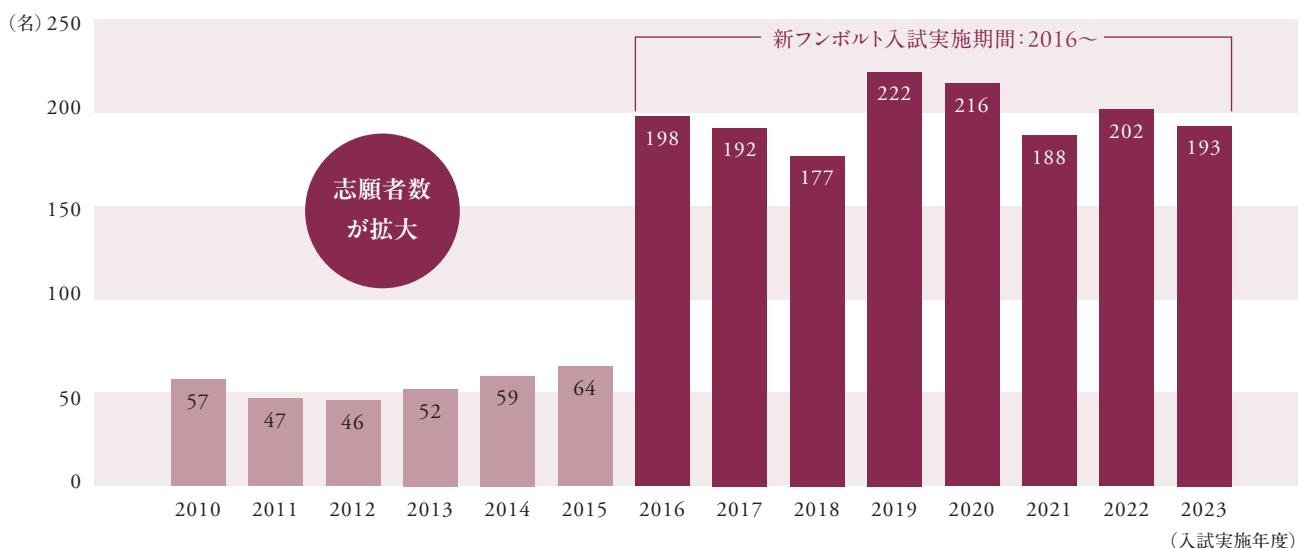
参考 URL

- 大学HP: 学士・修士一貫教育トラック制度を利用した学生の声(一例)
<https://www.sci.ocha.ac.jp/ug/bios/gakkamenu/ikkan-track.html>
- 大学案内2024年度版「p.95大学院の特徴」
https://www.ocha.ac.jp/plaza/info/d002661_d/fil/ochadai_guide_2024.pdf

総合型選抜「新フンボルト入試」の実施

本学では2016年度に実施した入試から「新フンボルト入試」を実施しています。新フンボルト入試はものごとを深く考究する力、自ら課題を見つけ、データを集めて論理を構築する力、そうした豊かなポテンシャルをもった人を選抜し、知識の量だけではなく、知識をいかに活用できるかを問う入試です。同時に新フンボルト入試の受験者のみならず高

校2年生や入試を受験しない高校3年生にも開放して、本学の校風や大学という学問の世界に直接触れ、その面白さや奥深さを実地体感してもらうための「プレゼミナール」を開講し、大学の授業をじかに体験していただくプログラムも実施しています。



活動実績 -2

研究

農林水産研究開発事業ムーンショット型

『地球規模の食料問題の解決と人類の宇宙進出に向けた 昆虫が支える循環型食料生産システムの開発』

2050年には世界の人口増加により食料需要が現在に比べ1.7倍になると見込まれており、一方、生産効率のみを重視した従来の方式だけでは地球の自然循環機能が破綻し、立ち行かなくなるおそれがあります。そのため、食料の増産と地球環境保全を両立するために、生産力の向上だけでなく環境負荷や食品ロス問題を同時に解決していくことが必要です。ヒューマンライフノベーション開発研究機構では、2020年から本学を含む17機関（大学や研究機関）が参画して、コオロギ、ミズアブ、シロアリを新たな飼料・食料源にするための基盤を構築する研究プロジェクトを構成して研究を行い、昆虫を家畜化することで人類の食料に新しいタンパク質資源を加え、食料の安定供給の実現を目指しています。これら全体活動のMission、Impact、Our Superiority、Goal、Project and Teamを達成するため、本学がヘッドクオーターとなって各機関がプロジェクトで日々発生する研究活動を支援しています。



プロジェクトのGOAL ZERO HUNGER 誰も飢えさせない



~2030年

2030年までに、昆虫を人類の食・健康と地球環境を支える新たな生物資源として活用します。

~2040年

2040年までに、地球上のいかなる環境にも対応可能な昆虫生産システムを開発します。

~2050年

2050年までに、宇宙空間における人類の安全・安心な食と健康を支える完全循環型の食料生産システムを構築します。

TOPIC 昆虫食レシピの公開

本プロジェクトのHPでは、プロジェクトの成果発信の一環として、昆虫食レシピを公開しています。

コオロギカレー



- コオロギの香りとエビの香りを活かしたカレーです。
- カレー1人前でタンパク質20g(内コオロギ由来11g)を含みます。

コオロギチョコバー



- コオロギを使ったプロテインバーです。
- 1本あたりタンパク質11g(内コオロギ由来4g)を含みます。

参考 URL

- 本学ヒューマンライフサイエンス研究所HP「ムーンショット型農林水産研究開発事業」
<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/moonshot/>
- ムーンショット型農林水産研究開発事業
『地球規模の食料問題の解決と人類の宇宙進出に向けた昆虫が支える循環型食料生産システムの開発』HP
<https://if3-moonshot.org/>

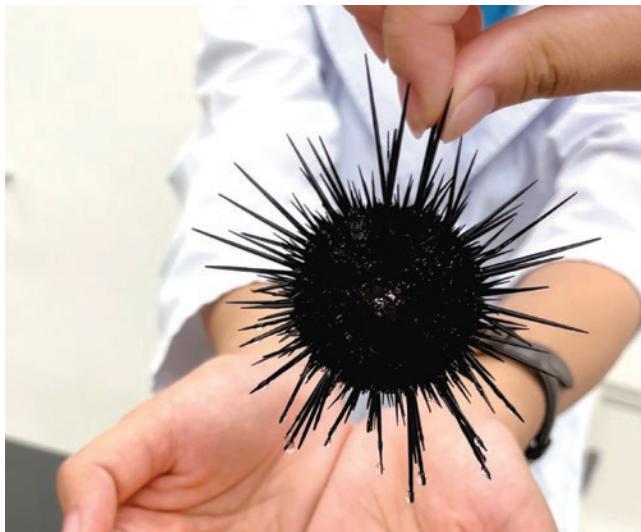
活動実績－3

社会連携

東京湾口の豊かな生物相の理解から海との共生を目指す 教育拠点としての取組

文部科学省の教育関係共同利用拠点に認定されている千葉県館山市にある「湾岸生物教育研究所」では、海の生物について国内外の大学・研究機関等と連携して、分類形態の基礎から海洋酸性化やマイクロプラスチックなどの環境問題まで幅広いコンテンツを用意し、利用する全国の大学・高校・中学校・小学校に対して希望に応じたオーダーメイド型臨海実習の実施や、海産バイオリソースの提供

などの受入を行っています。この結果、2023年度は、(1)オーダーメイド型臨海実習(11回:123名)、(2)公開臨海実習(22大学:34名)、(3)高校生等対象のイベントの開催(9回:137名)、(4)海産バイオリソースの提供(247機関:20,665名)を行いました(実績はいずれも2024年2月末時点)。



日本財団「海と日本PROJECT」を通じた、海洋教育に関する各イベントや海産バイオリソースの提供も実施

参考
URL

- 本学湾岸生物教育研究所HP
<https://www.cf.ocha.ac.jp/marine/index.html>

活動実績 -4

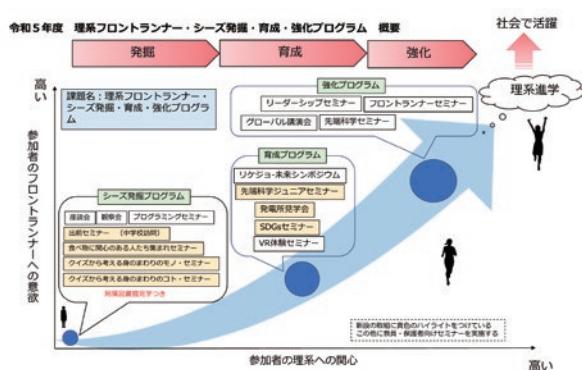
理系女性育成

女子中高生の理系進路選択支援プログラムを推進

2015年度に理系女性教育開発共同機構として発足し、7年間にわたる活動で蓄積された女子学生・生徒への理工系分野への進路選択促進と理工系人材の育成の成果を、さらに発展させるため2022年度から「理系女性育成啓発研究所」として活動を行っています。同研究所の取組は、我が国の理工系女性人材の層を厚くするために、初等・中等教育において女子生徒が理工系分野に興味や関心を抱く機会を設けるとともに、女子生徒の周囲で進路選択に大きな影響を与える保護者及び教員に対しても、理工系分野への進路選択について理解を促進させる活動となっております。

2023年度は、進路選択を意識していない層に対して理系への興味を発掘する「シーズ発掘プログラム」、幅広い理系分野への興味・関心を育成する「教育プログラム」、理系分野の中からより興味のある分野を

選択するための「強化プログラム」の3種類に分けて人材の育成を行っています。理系への進路選択はゴールではなくスタートとして、将来のフロントランナーとなり、理工系女性人材としての未来を描き育むことを推進したプログラムです。また、2023年度に開催したシンポジウム・セミナー等は計32件、参加者は1,428名に上り(実績はいずれも2024年3月末時点)、「フロントランナーセミナー」は特に注目されました。さらに、附属中学校及び附属高等学校と連携して、JFEスチール東日本製鉄所などの企業見学会を実施し、イノベーションを支える産業やSDGsの達成に挑むプログラムへの理解促進に努めて参りました。その結果、各イベントなどの参加者を対象としたアンケート調査では、満足度が約95%にも上り、啓発活動を強化することができました。



女子中高生の理系進路選択支援プログラム(JST事業)の概要



理系女性育成啓発研究所のこれまでの取組が認められ、
日産財団第6回リカジョ育成賞準グランプリを受賞(2023.8)



第1回「クイズから考える身のまわりのコト・セミナー」の様子(2023.12)



「文部科学省情報ひろば」において、企画展示「女子中高生の理系への進路選択を後押しするために」を開催(2024.1~2024.2)

参考 URL

- 本学理系女性育成啓発研究所HP
<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/>
- 大学HP「理系女性育成啓発研究所が日産財団第6回リカジョ育成賞準グランプリを受賞」
<https://www.ocha.ac.jp/news/d013358.html>
- 大学HP「「文部科学省情報ひろば」企画展示「女子中高生の理系への進路選択を後押しするために」の開催について」
<https://www.ocha.ac.jp/news/d014054.html>

活動実績－5

附属学校園

附属学校園における特色ある教育モデルの成果の発信

附属学校園では、それぞれの年齢段階に応じた特色ある教育モデルに関する研究・実践を行うとともに、社会貢献や学校教育水準の高度化等に資するため、「附属学校園教材・論文データベース」を通じて、コンテンツを社会に発信しています。この発信は、2019年度より実施しており、2023年度までの5年間(2023年9月時点)の実績は下図の通りです。

また、附属高等学校では、2019年度よりスーパーサイエンスハイスクール(以下SSH)事業を展開しており、「女性の力をもつ世界に～協働的イノベーターとイノベーションを支える市民の育成～」をテーマに研究開発に取り組んでいます。2023年度は、「持続可能な社会の探究」について研究授業公開を行うとともに、SSH生徒発表会を開催して、実践・成果報告を行っています。

附属中学校では、2022年度から設定した研究テーマ「試行錯誤と創意

工夫のある『つくる学び』をつくる～各教科における見方・考え方を生かした創造的思考力を伸ばす授業のデザイン～」のもとで実践研究に継続して取り組み、2023年10月28日には全国から170名を超える教育関係者が参加して、帰国生徒教育学級45周年公開研究会を開催しました。

附属小学校では、2019年度に文部科学省より研究開発学校の指定(指定期間:～2023年度)を受け、【自ら学びを構想し、主体的に学びを進める新領域「てつなぐ創造活動」を中心とする教育課程の開発】に取り組んでいます。

附属幼稚園では、文部科学省より研究開発学校の指定(当初指定期間:～2022年度)が終了しましたが、2023年度も継続して幼児の発達と学びの連続性を踏まえた幼稚園の教育課程(3歳児～5歳児)の編成及び保育の実際とその評価の在り方についての研究成果を発信しています。

附属学校教材・
論文データベースの
実績
2019～2023年度累計
(2023年9月時点)

掲載件数
672 件

利用者数
10,573 名

ページビュー数
64,838 件

ダウンロード数
15,498 件

参考
URL

- 附属学校園教材・論文データベース
<https://kyozai-db.fz.ocha.ac.jp/>

大学と附属学校園との協働を通じて 大学入学前からの総合知育成モデルの探究を開始

社会の変革には教養知と専門知に実践知を結びつけた「総合知」を備えた人材が必須です。そこで「総合知」を獲得するための「コンピテンシー」を戦略的に育成するために「総合知開発研究機構」の下に「コンピテンシー育成開発研究所」を2022年度に設立しました。2023年度は、コンピテンシーを測定するツールの整備(第1版)を行いました。そして、その測定結果を踏まえた効果的な教育手法の開発・実践・効果検証のサイクルを回し、有用なコンピテンシー育成のツールと教育手法を開発することを附属学校園と協働して進めています。

参考
URL

- 本学コンピテンシー育成開発研究所HP
<https://www.cf.ocha.ac.jp/icd/index.html>

総合知の育成

コンピテンシー

実践知

学芸知

教養知

専門知

総合知

教養知及び専門知から構成されている学芸知と、実践知を備え、それらに含まれる知識やスキルを組み合わせるなどして適切に活用しながら、複雑な問題への対処を可能とする知恵の状態です。高いコンピテンシーを持つことによって、そうした対処ができるようになります。社会の変革のためには、問題の多重性、不確実性、複雑さに対応していく力が必要であり、総合知が必要となります。

ESGの取組

Environment

環境への取組

環境方針

■ 基本理念

お茶の水女子大学は、様々な環境課題に対して、私たちが地球規模で連帯して解決に取り組まなければならない喫緊の課題であることを深く認識し、地球環境に配慮した安全・安心なキャンパスの構築に努め、持続可能な社会の実現へ向けて社会的役割を果たしま

す。また、日々の教育研究活動をはじめとするあらゆる諸活動を通して、現代社会が直面する環境課題を意識し解決する能力を備えた人材の育成に努め、豊かな未来の創造に貢献します。

■ 基本方針

1. 省エネルギーの推進	2. 資源の有効活用	3. 有害物質の漏出防止
4. 環境活動の推進と環境人材の育成		
5. 社会への説明責任と情報発信		

1. 省エネルギーの推進

「お茶の水女子大学エネルギー管理標準」に基づき、キャンパス内の省エネルギーを推進するとともに、全ての構成員への省エネルギーに関する啓発活動を行い、カーボンニュートラルに向けた取組に貢献します。

2. 資源の有効活用

キャンパス内で消費する環境資源を削減及び有効活用し、キャンパス外へ排出する廃棄物の削減に努め、エコキャンパスを目指します。

3. 有害物質の漏出防止

環境関連の法令を遵守するとともに、全ての化学物質等について適正に管理し、有害物質の漏出防止・汚染防止を徹底します。

4. 環境活動の推進と環境人材の育成

多様な環境保全活動、環境教育・研究活動、社会貢献活動を通じて、環境課題について自ら考え、環境課題の解決へ向けて積極的に取り組む環境マインドを持った人材の育成に努めます。

5. 社会への説明責任と情報発信

本学の環境に対する考え方や環境配慮の取組・成果について、学内外へ広く情報を発信し、地域社会や国際社会との架け橋としての役割となることを目指します。

キャンパスの環境整備方針

キャンパススマスタークリエイティブプラン2021(計画期間:2021~2025)では、SDGsに配慮した安全・安心な魅力あるキャンパスづくりのため、基本方針の1つとして、「地球環境に配慮した教育研究環境の実現」を掲げています。この基本方針のもと、持続可能なキャンパス環境を実現する

ため、緑ある自然環境を維持し、省エネルギーに配慮した一貫的な地球環境対策を推進しています。

キャンパススマスタークリエイティブプラン2021に基づく具体的な整備方針は以下の通りです。

1. キャンパス内の樹木の保存・継承、及び現存する自然環境の教育への活用による維持・保全を推進します。
2. 老朽化し機能低下した施設設備を改善し、長期にわたり施設を有効に活用するための機能改善整備を行います。
3. 地球温暖化対策(省エネ、温暖化防止等)を積極的に取り入れた施設整備となるよう計画を立案します。
4. 関係法令に則り地球温暖化対策を推進し、温室効果ガス排出量の削減に努めつつ、サステナブル・キャンパスとして環境に配慮した施設整備を進めます。



徽音塾 お茶大女性ビジネスリーダー育成塾

<http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/>



女性の自立と社会的活躍に寄与する取組の一環として、2014年5月にキャリアアップをめざす女性のための「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音（きいん）塾」を開講しました。2023年度までに約430名の塾生が学びを深め、つながり、それぞれの立場で最大限の可能性を開花させています。2024年度は開講10周年を迎えるにあたり、徽音塾は企業等で指導的立場に就くことをめざす女性だけでなく、多様な分野・立場でリーダーシップを発揮することをめざす女性を応援するた

めに内容の一層の充実とユーザビリティ向上に取り組んでいます。

徽音塾の使命は、女性が意欲的に学ぶ場を引き続き創造し、社会的変革に寄与しうる女性リーダーを輩出することであり、ひいては女性が活躍する社会を実現していくことにあります。徽音塾で学んだ女性たちが、それぞれの可能性を最大限に広げてつながっていくことを願っています。

■ 開講講座(2024年度)

女性のエンパワーメントとリーダーシップ講座

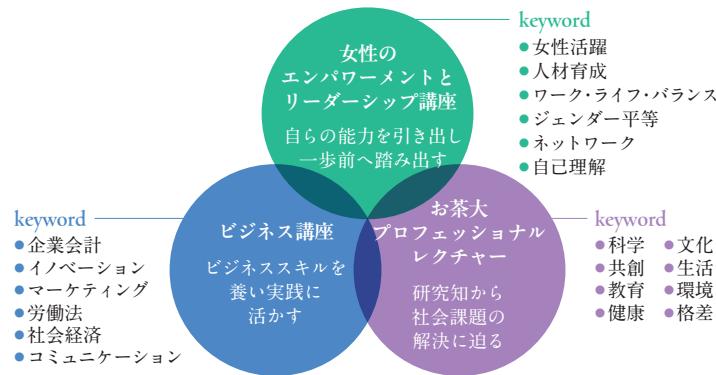
女性の可能性を開花させ、リーダーシップを躊躇なく発揮することを促し、応援する講座です。

お茶大プロフェッショナルレクチャー

リーダーシップを発揮するための深い知識と高度な教養を本学教員から学ぶ講座です。

ビジネス講座

一般的なビジネススクールで学ぶ内容を厳選し、本学独自の視点を加えた講座です。



■ 特長

授業は少人数制 講師と塾生同士が近い距離で グループワーク、 ディスカッションができる。	オンライン講座として開講 どこからでも徽音塾に アクセスでき、 1科目から受講可能。	受講者は女性のみ 自分と同じ考え方や悩みを持つ人、 異業種・他分野の人との ネットワークづくりができる。 [*]
--	--	---

*ネットワーキングランチ、塾生のOG会やSlackの活動も行っている
※トランスジェンダーの女性(性自認が女性の方)も参加可能
※リカレント教育として、企業や法人等団体によるお申込も受付

TOPIC >

ネットワーキングランチ

- ランチを兼ねてネットワークを構築するための交流会（オンライン）を講座開講日の11:30～13:00に随時開催
- 塾生に限らず、就業経験のある女性であればどなたでも参加可能
- 毎回、ディスカッションテーマを決めて議論するなど、和気あいあいとした雰囲気で進行

塾生の声

山本 紗矢香さん (食品メーカー会社員)

私が徽音塾を受講した理由は、育児休暇中も一人の女性として成長したいと思ったからです。育休中、育児に専念することは、キャリアを断絶させてしまう気がして不安でした。しかし、乳幼児を抱えながら、がむしゃらに勉強することは現実的ではありません。その点、徽音塾は、子育てをしながらも根っこから学び直し、新しい見方や広い視野を身に付けていた私にぴったりの講座でした。オンラインでともに受講した皆さんには、子連れで参加することにも柔軟に対応してください、とても温かく受け入れてくださいました。年間を通して、様々な観点から物事を考え、議論し、しなやかな女性のキャリア形成に必要な知恵を学ぶことができました。春からいよいよ復職しますが、徽音塾での学びは、揺るぎない自信になっています。



執行部体制

本学では、教育・研究・社会貢献等の機能を最大限発揮するために法人の長である学長を経営と教学の最終責任者とし、学長を補佐するため理事5名を置き法人の業務を掌理するとともに、特定の

重点事項を担当する副学長3名を置いています。また法人の業務が適正に行われているかを監査するために監事が置かれ、ガバナンス体制等を含めた監査を行っています。



学長

佐々木 泰子

理事・副学長(総務・理系女性育成・創立150周年事業・同窓会担当)

加藤 美砂子

1

理事・副学長
(教育改革・入試改革担当)

新井 由紀夫

2

理事・副学長
(研究国際交流・男女共同参画担当)

石井 クンツ昌子

3

理事・副学長
(評議・学校教育開発支援担当)

坂元 章

5

理事
(新領域開拓担当)

谷 明人

副学長
(広報・学術情報担当)

赤松 利恵

6

副学長
(産学連携・イノベーション担当)

太田 裕治

7

副学長
(事務総括)

福本 浩一

8

監事
(非常勤)

宮井 真千子

9

監事
(非常勤)

中野 和子

11

JX金属戦略技研(株)
代表取締役社長

森永製菓(株)
取締役常務執行役員

弁護士
(東京市谷法律事務所)

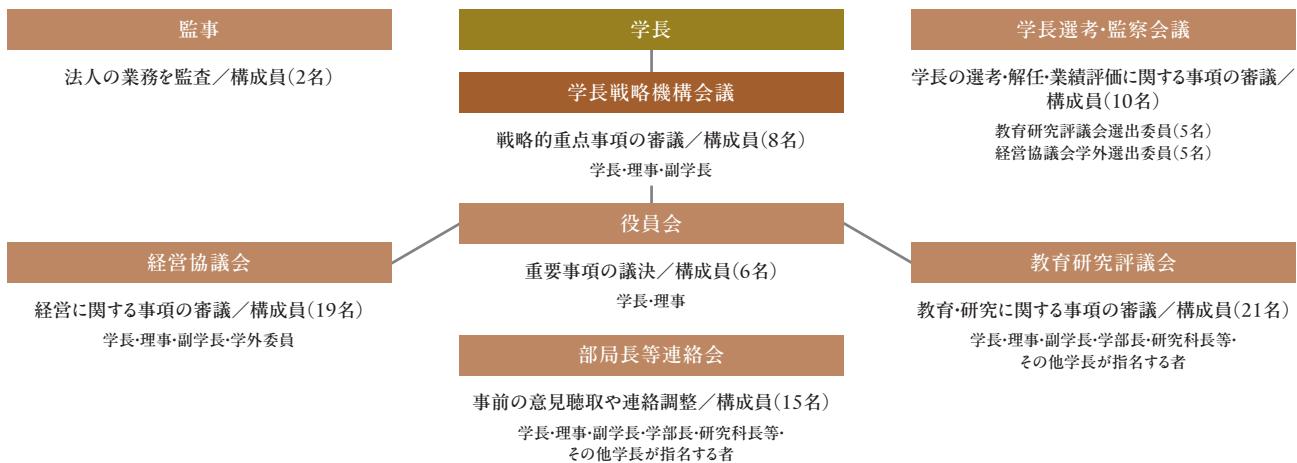
Governance

お茶の水女子大学の運営組織

本学は国立大学法人法に基づき、学長の意思決定を支える会議体として、「役員会」「経営協議会」「教育研究評議会」を設置し、経営及び教育・研究等の重要事項について審議を行っています。また「学長選考・監査会議」は、学長を選考(任命は文部科学大臣)するとともに、学長の中間評価・業績評価によるチェック機能の役割も果たしています。

国立大学法人法に基づく法定会議に加え、学長のリーダーシップによる迅速な意思決定を可能とするため、学長・理事・副学長で構成する「学長戦略機構会議」を置き、戦略的重點事項の審議を行うとともに、「部局長等連絡会」を開催し、執行部と部局長等との意見交換や連絡調整を行っています。

お茶の水女子大学の運営組織(2024年4月時点)



経営協議会学外委員

経営に関する重要な事項を審議しており、委員の過半数は学外委員で構成しています。大学経営に対して学外有識者に参画していただくことで、広く社会の意見を取り入れる仕組みとなっています。

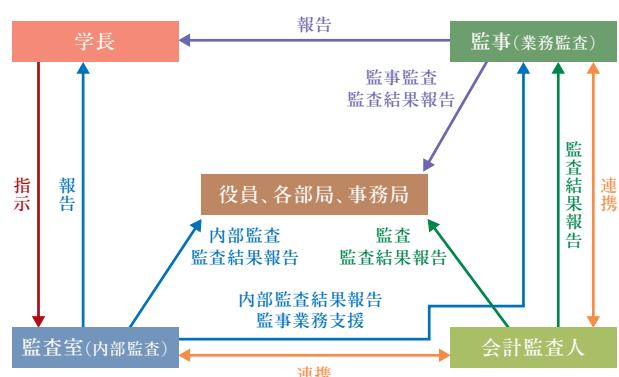
経営協議会学外委員(2024年4月時点)

現職等	委員
ENEOS総研株式会社 元代表取締役社長・産業競争力懇談会専務理事 実行委員長	五十嵐仁一
(独)日本芸術文化振興会顧問・国立教育政策研究所名誉所員	河村潤子
S&R財团理事長兼CEO・京都大学特命教授兼総長特別補佐	久能祐子
中外製薬株式会社特別顧問	小坂達朗
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事長	小安重夫
(株)みずほフィナンシャルグループ特別顧問	佐藤康博
お茶の水女子大学名誉教授・元人事官	篠塚英子
上智大学総合人間科学部教育学科教授	杉村美紀
ロイター通信日本支局長	豊田佑基子
元駐米大使・(一社)日米協会会长・北鎌倉女子学園理事長	藤崎一郎

監査機能体制

本学では、監事による監事監査、監査室による内部監査及び会計監査人による監査の連携を図り、教育・研究の質の向上や適正かつ合理的・効率的な業務運営のための検証を行っています。

監査体制図(2024年4月時点)



2022年度決算

お茶の水女子大学の財政状況と運営状況を把握するため、貸借対照表と損益計算書が活用されます。これらの財務文書は、大学の経営状況を詳細に理解するための貴重な情報源であり、透明性と健全性を保つために利害関係者や監督機関に提出されます。

貸借対照表(B/S)

貸借対照表(B/S)は、決算日(各年3月31日)における全ての資産、負債及び純資産を記載し、お茶の水女子大学の財政状況を明らかにしたもので、負債・純資産の部では元手資金をどのような手段で集めているかを示しており、資産の部では元手資金をどのような形で運用しているのかを表しています。

				(単位:百万円)			
科目	2021年度	2022年度	増減	科目	2021年度	2022年度	増減
資産の部				負債の部			
【固定資産】				【固定負債】			
土地	74,140	73,492	▲ 648	資産見返負債	5,634	0	▲ 5,634
建物	14,051	13,894	▲ 157	長期繰延補助金等	0	406	406
構築物	658	642	▲ 16	長期前受金	997	984	▲ 13
工具器具備品	707	1,142	435	長期未払金	4,444	4,313	▲ 131
図書	2,933	2,932	▲ 1	その他	125	279	154
美術品・収蔵品	213	213	0	【流動負債】			
投資その他の資産	301	401	100	運営費交付金債務	0	4	4
その他	50	96	46	寄附金債務	1,479	1,448	▲ 31
【流動資産】				前受金等	289	340	51
現金及び預金	4,224	3,898	▲ 326	未払金	1,529	868	▲ 661
未収入金	173	103	▲ 70	その他	796	548	▲ 248
その他	72	67	▲ 5	負債合計	15,296	9,194	▲ 6,102
資産合計	97,528	96,887	▲ 641				
純資産の部							
資本金	80,771	80,771	0				
資本剰余金	919	1,111	192				
利益剰余金	499	235	▲ 264				
当期末処分利益	41	5,574	5,533				
純資産合計	82,231	87,693	5,462				
負債・純資産合計	97,527	96,887	▲ 640				

※ 百万円未満については切り捨ててありますので、計は一致しない場合があります。

主な増減内訳

資産の部

2022年度末の資産合計は前年度比641百万円減の96,887百万円となっています。主な減少要因としては、東村山郊外園の土地一部売却により土地が648百万円減となったこと、学生寮(国際学生宿舎)の除却等により建物が157百万円減となったこと、現金及び預金が326百万円減となったことなどが挙げられます。主な増加要因としては、高速キャンパス情報ネットワーク整備等により工具器具備品が435百万円増したこと、地方債取得により投資その他の資産が100百万円増となつたことなどが挙げられます。

負債の部

2022年度末の負債合計は前年度比6,102百万円減の9,194百万円となっています。主な減少要因としては、会計基準改訂により資産見返負債が5,634百万円減となったこと、理学部1号館改修工事等の大規模な固定資産の支払いを行ったことにより未払金が661百万円減となったことなどが挙げられます。主な増加要因としては、会計基準改訂により長期繰延補助金等が406百万円増となつたことが挙げられます。

純資産の部

2022年度末の純資産合計は前年度比5,462百万円増の87,693百万円となっています。主な増加要因としては、臨時利益の増加により当期末処分利益が5,533百万円増となつたことなどが挙げられます。主な減少要因としては、中期目標繰越積立金への振替等を行つたことにより利益剰余金が264百万円減となつたことが挙げられます。

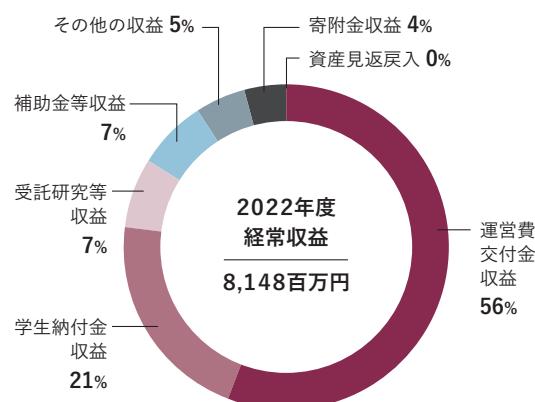
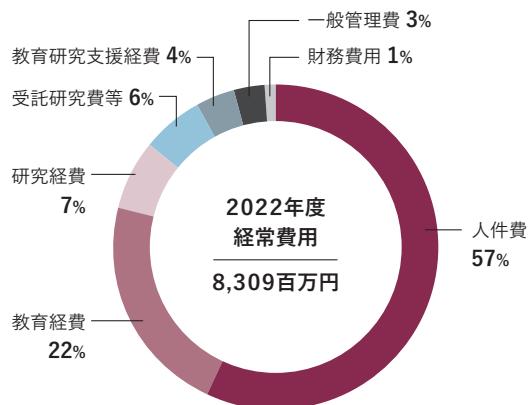
損益計算書(P/L)

損益計算書(P/L)は、一会计期間内に実施した事業において生じた全ての費用及び収益を記載し、お茶の水女子大学の運営状況を明らかにしたもので、費用側では事業の実施に要した費用を目的別に示しており、収益側ではそれらの費用をどの財源で賄ったのかを表しています。

科目	2021年度	2022年度	増減
経常費用			
教育経費	1,657	1,834	177
研究経費	473	574	101
教育研究支援経費	233	299	66
受託研究費等	516	535	19
人件費	4,603	4,743	140
一般管理費	290	275	▲15
財務費用	0	46	46
経常費用 合計	7,776	8,309	533
臨時損失	0	24	24
当期総利益	41	5,574	5,533

科目	2021年度	2022年度	増減
経常収益			
運営費交付金収益	4,532	4,545	13
学生納付金収益	1,673	1,758	85
受託研究等収益	519	539	20
寄附金収益	323	336	13
補助金等収益	171	558	387
資産見返戻入	288	0	▲288
その他の収益	209	409	200
経常収益 合計	7,718	8,148	430
臨時利益	89	5,635	5,546
目的積立金取崩額	10	125	115

※ 百万円未満については切り捨ててありますので、計は一致しない場合があります。



主な増減内訳

経常費用

2022年度の経常費用は前年度比533百万円増の8,309百万円となっています。主な増加要因としては、文教育学部1号館改修工事に伴い教育経費が177百万円増及び研究経費が101百万円増となったこと、高速キャンパス情報ネットワーク整備等に伴い教育研究支援経費が66百万円増となったこと、定年退職者の増加により職員人件費が103百万円増えたことなどが挙げられます。主な減少要因としては、一般管理費が15百万円減となったことなどが挙げられます。

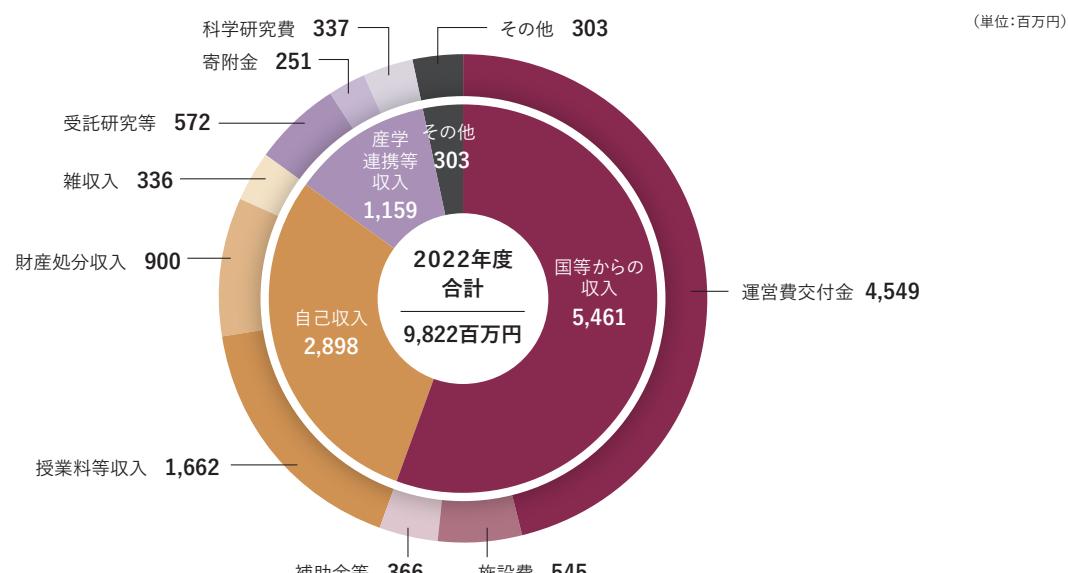
経常収益

2022年度の経常収益は前年度比430百万円増の8,148百万円となっています。主な増加要因としては、受入額の増加により補助金等収益が387百万円増となったことなどが挙げられます。主な減少要因としては、会計基準改訂に伴い資産見返戻入が288百万円減となったことなどが挙げられます。

大学の財務状況(収入)

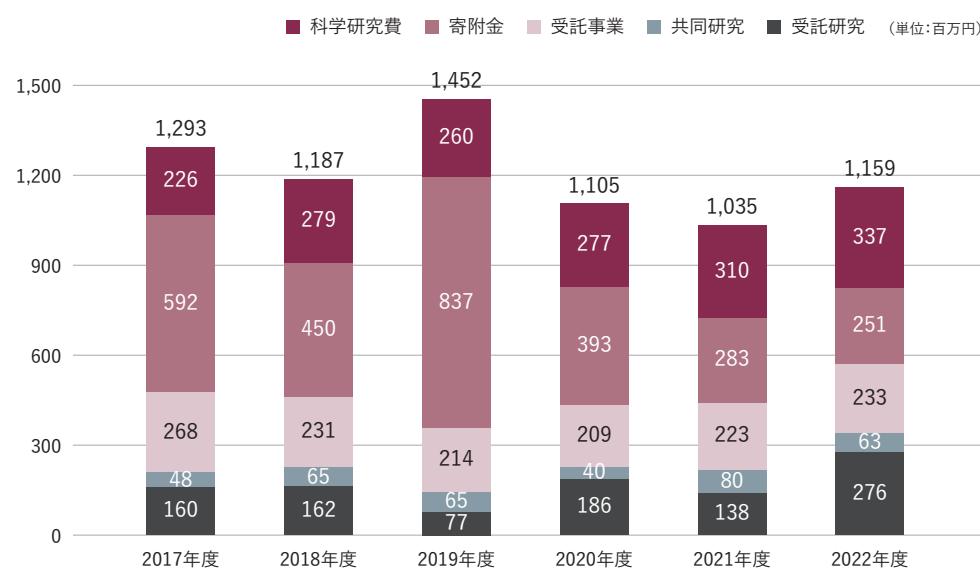
1. 全体収入

お茶の水女子大学の収入は大きく「国等からの収入」「自己収入」「産学連携等収入」「その他」に分けることができます。2022年度の総収入額は98億22百万円であり、このうち大学の自助努力である「自己収入」「産学連携等収入」「その他」は合わせて43億61百万円となり、総収入額の44.4%となります。



2. 産学連携等収入

2022年度の産学連携等の獲得総額は、前年度より増額し、11億59百万円となりました。特に受託研究費の伸びが顕著であり、前年度から倍増しております。

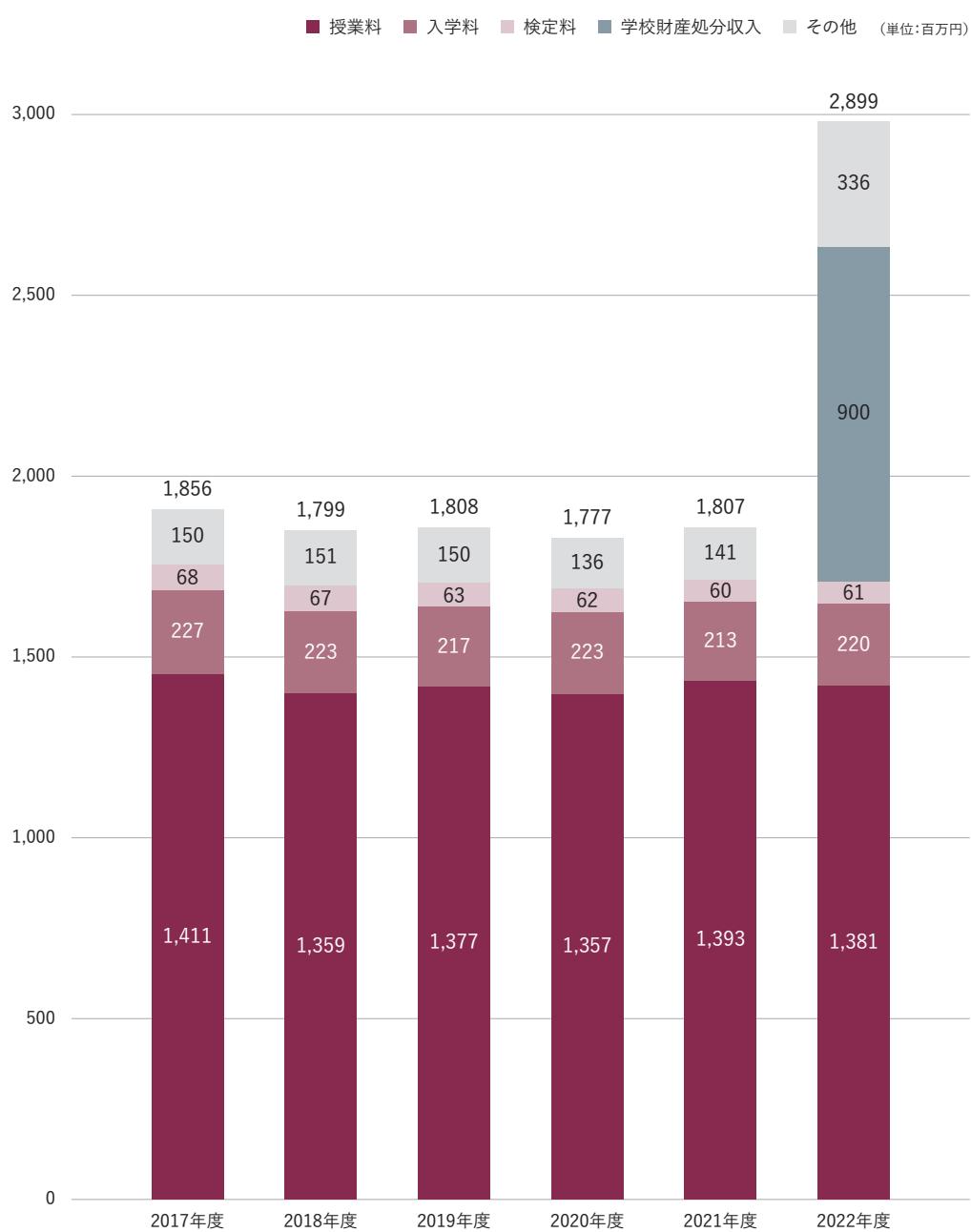


3. 自己収入

2022年度の自己収入の総額は前年度より大幅に増額し、28億99百万円となりました。これは稼働率が低下していた東村山郊外園の土地の一部を売却したためであり、売却額は約9億円となっております。

また、東京都板橋区大山にありました旧学生寮跡地に定期借地権を設定し、民間企業に貸し付けを行いました。期間は75年6ヶ月で年間約1億2千万円の地代収入が発生しており、長期で安定的な収入を確保しております。

その他にも複数の企業とネーミングライツ契約を交わすなど様々な形で自己収入の増加に努めています。

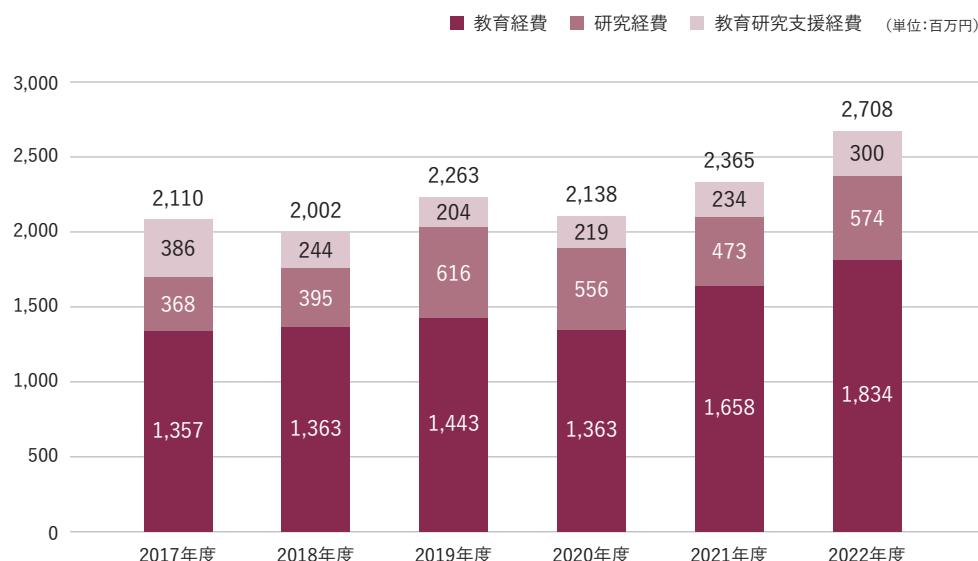


※ 百万円未満については切り捨ててありますので、計は一致しない場合があります。

大学の財務状況(支出)

1. 教育研究関連経費

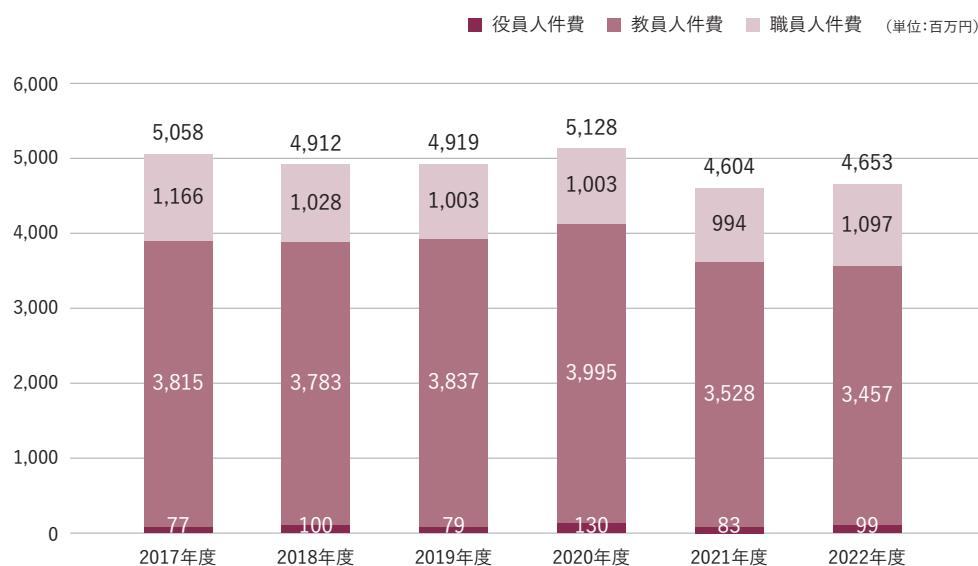
教育関連経費ですが、上昇傾向にあります。特に2021年度からの教育経費の伸びが顕著であり、これは自己収入が増加したことに伴い、学生関連の経費への支出を強めたためで、教育環境を充実させるものとなっております。



※ 百万円未満については切り捨ててありますので、計は一致しない場合があります。

2. 人件費

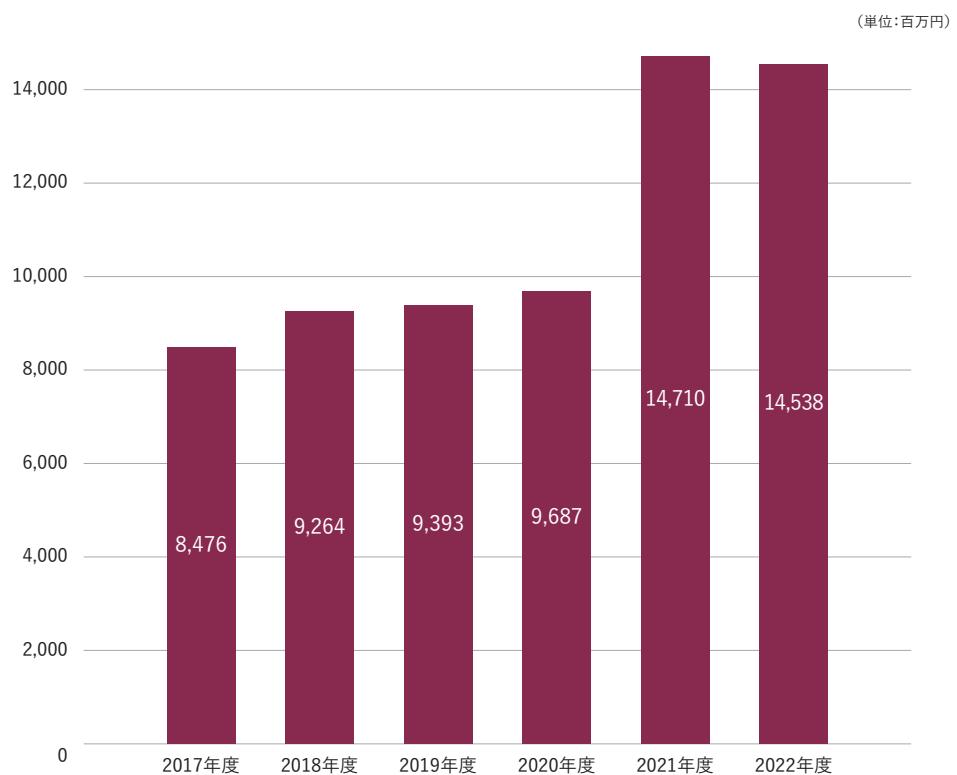
2020年度までほぼ横ばいですが、2021年度より教員人件費が大幅に減少しております。これは2020年度から2021年度にかけて定年退職等で24名の教員が入れ替わり、若手教員の採用が行われたためです。



※ 百万円未満については切り捨ててありますので、計は一致しない場合があります。

3. 建物等の金額

近年、本学は建物等の固定資産への設備投資を継続的に行っており、取得価格から減価償却累計額を差し引いた資産価値は上昇傾向にあります。国からの交付金に頼るだけでなく、2018年度には寄附金を活用し、国際交流・地域貢献・世代間交流の3つの目的を持つ集いの場として「国際交流留学生プラザ」を建設しました。また、2021年度には大学構内に新しい学生寮(「音羽館」)が竣工しました。こちらは総工費約53億円で民間資金を活用したものとなっており、本学の一部負担を除き、大部分を企業側が負担する形で建設しております。その他にも、キャンパスに隣接している旧同窓会館跡地にも民間資金を活用する形で複合施設の建設を予定しております。



2018年度	国際交流留学生プラザ竣工
2020～2021年度	理学部1号館大規模修繕
2021年度	学生寮(音羽館)竣工
2022～2024年度	文教育学部1号館大規模修繕
2024年度	複合施設建設業者選定予定

創立150周年記念募金に関するお願ひ

創立150周年記念事業

創立150周年記念プロジェクト事業

創立150周年記念式典を挙行

令和7年(2025年)11月29日の本学創立記念日に、学生・教職員・卒業生ほか、常日頃からご支援をいただいている皆様とともにお茶の水女子大学の新たな旅立ちを記念する創立150周年記念式典を挙行します。

関連イベントの開催及び先端的教育・研究をテーマとした講演会・国際シンポジウムなどを開催

式典に前後して、広く社会に向けて啓発する関連イベントや、先端的教育・研究をテーマとした講演会やグローバル・シンポジウムなどを開催する予定です。

ESGキャンパス整備(同窓会館跡地整備)事業

大学に隣接する同窓会館跡地に

新しい複合施設を建設予定

この新しい複合施設は、新たに設置された共創工学部及び創立150周年を象徴するメモリアルな建物とし、未来の環境、社会、文化を創造する新たな理工系女性人材の育成を強化とともに、産学連携の促進や大学発ベンチャーの拠点としての機能を担います。さらに、同窓会館の跡地であることから、各附属学校園の同窓生と大学との新たなコモンズの形成に資する空間として活用いたします。また、重要なステークホルダーである地域の人びととの活動に資するオープンな交流の場として提供することにより、イノベーションへの理解を促進し、大学の地域貢献の機能を強化します。

お茶の水女子大学

創立150周年記念募金に

関するお願ひ

これらの記念事業は、皆さまのご支援、お力添えなくしては到底成しうることではありません。今、お茶の水女子大学に課された次の時代へのイノベーションを実現するために、卒業生はもとより、広く多くの皆さまのお力添えを賜りたいと存じます。何とぞ本趣旨にご賛同いただき、格別のご高配を賜りますよう切にお願い申し上げる次第です。

その他のご寄附
詳細はこちらから
ご確認ください。



その他のご寄附

未来開拓基金

日本と世界の様々な課題に向き合い、豊かな未来の創造に向けて努力する女性たちと子どもの育ちを支援するため、修学支援、学びの場の整備、地域や産学官との連携等に活かされます。

学生へのご寄附

学生がより充実した学生生活を送るために奨学金や課外活動への支援となります。

お茶の水古本募金

お茶の水女子大学は、2016年12月1日から、読み終わった本、DVD、CD、ゲームソフトによる募金(お茶の水古本募金)を開始しました。

研究へのご寄附

研究の奨励を目的として受け入れているこの寄附金は、本学の学術研究の充実、発展に重要な役割を果たしています。



お茶の水女子大学は、令和7年(2025年)に創立150周年を迎えます。これまでの発展の軌跡を踏まえ、これからも社会の要請と期待に十全に応えることのできる大学であり続けることを期して、以下の4つの記念事業を計画いたしました。



創立150周年
特設サイトはこちらから
ご覧いただけます。



創立150周年記念学修支援奨学基金事業

未来を支える人材を育む大学の機能強化と 新たな時代に対応する学びの支援の充実

デジタル人材・グリーン人材等のこれから社会に必要な人材を育成し、不足する博士人材育成をも視野に入れつつ、学生が経済的に安心して学修・研究に集中できる環境を整える必要があります。また変化の激しい時代において、学ぶ意欲のあるすべての女性たちへの支援の充実と環境整備も重要であり、学び直し(リカレント教育・リスクリング)を促進するための体制作りを一層強化し、時代の要請に応えるとともに、学び直しが我が国の未来をけん引する新しい女性リーダーの誕生につながることを目指していきます。

創立150年史編纂事業

令和8年度(2026年度)に刊行予定の 『お茶の水女子大学150年史』編纂のための事業

お茶の水女子大学の歴史は、日本の女子教育と女性リーダー育成の歴史でもあります。『お茶の水女子大学150年史』は、昭和59年(1984年)に刊行された『お茶の水女子大学百年史』を補完し、一女子大学が、国立大学の法人化という変革の荒波を乗り越えて歩んできた歴史を次世代に伝え、将来の女子教育に資すること目的としています。

募金名	国立大学法人お茶の水女子大学創立150周年記念募金(大学運営基金)
募集期間	令和4年(2022年)11月～令和8年(2026年)3月
ご協力をお願いしたい金額	1口1千円、5口以上(個人の方)／1口5万円、1口以上(法人の方)
目標額	15億円

お申込み方法の
詳細はこちらから
ご確認ください。



遺贈・相続財産によるご寄附

現在ご所有の資産の遺贈や相続財産をお茶の水女子大学にご寄附いただけます。

物品のご寄附

物品、有価証券、土地・建物等の寄附をご希望の方は事前にご連絡をお願いいたします。

寄附者への特典について

高額の寄附をしていただいた方に「お茶の水女子大学名誉学友記」の贈呈、感謝状の贈呈、銘板への掲載、主要な行事へのご招待をしております。

税制上の優遇措置について

大学への寄附金は、個人については所得税法及び地方税法、また法人については法人税制上の優遇措置が受けられます。寄附金控除による所得税・住民税の軽減額など、詳しくは、税制上の優遇措置のページをご覧ください。

税制上の優遇措置の
詳細はこちらから
ご確認ください。





〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

大学HP <https://www.ocha.ac.jp/>

お問い合わせ <https://www.ocha.ac.jp/shozoku.html>

[発行] 2024年5月